

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構
(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2022年5月1日現在)

名古屋市立大学 薬学部

「基礎資料」（様式4）作成上の注意事項

- 1 データの基準日は、記述の対象となる年度が指示されていない場合、大学が自己点検・評価を実施した年度（評価対象年度）の5月1日現在の数値を記載してください。
ただし、基礎資料4の2023年度入試結果は、「草案」の提出時には空欄のままかまいません。
- 2 記述に際しては、各シートの[注]、脚注を確認して、作成してください。なお、三つの方針については、煩雑さを避けるため「～・ポリシー」と表記します。
- 3 各シートの表中の斜体文字の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]、脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について（印刷体とPDFファイルを格納したCD-Rの作成上の注意）
 - ・基本的に、ページ設定で**A4判**に作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号（**基礎資料1から開始**）を付してください。
 - ・**両面印刷**して、加除が可能な体裁でファイル綴じにし、表紙と背表紙部分に「〇〇大学薬学部基礎資料」と明記し、「自己点検・評価書」とは別冊にして提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。
- 7 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所（項目名以外）を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

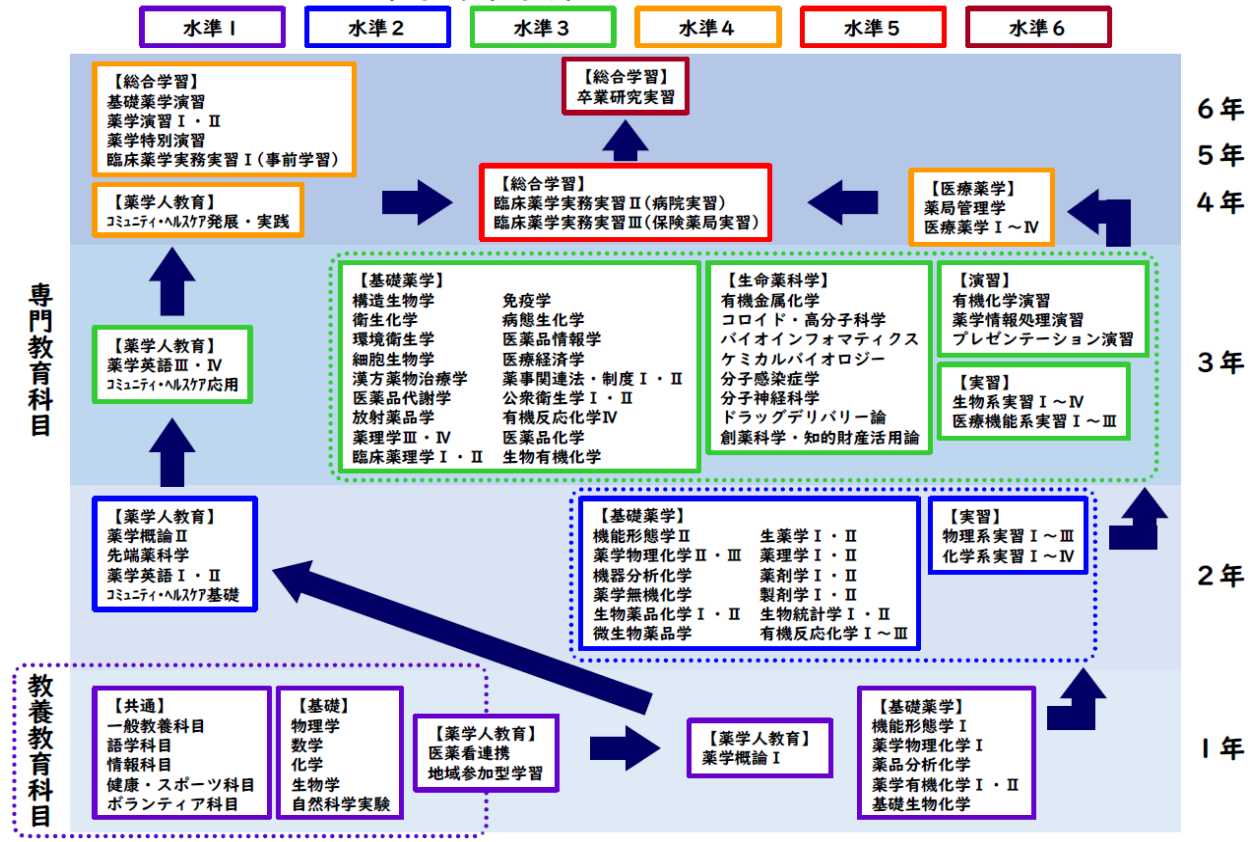
	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	35
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	39
基礎資料 5	教員・職員の数	5	40
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	41
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	42
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	52
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	53
基礎資料 10	学生の健康管理	6	109
基礎資料 11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	110
基礎資料 12	学生閲覧室等の規模	7	112
基礎資料 13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	113

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的性と科目の順次性（学年・学期進行による学習順序）がわかるような図を示してください。

薬学部薬学科カリキュラムツリー



[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

SBO略記	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
	A 基本事項									
	(1) 薬剤師の使命									
	【①医療人として】									
A:1:1:1	1	1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。	(医療看護連携地域参加型学習) (教養)				臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:1:2	2	2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)					臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:1:3	3	3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)					臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:1:4	4	4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)					臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
A:1:1:5	5	5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論Ⅰ	薬学概論Ⅱ						
A:1:1:6	6	6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学概論Ⅱ						
A:1:1:7	7	7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		薬学概論Ⅱ						
	【②薬剤師が果たすべき役割】									
A:1:2:1	1	1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)					臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:2:2	2	2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。		薬学概論Ⅱ			臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:2:3	3	3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。					臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:2:4	4	4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学概論Ⅰ	生物統計学Ⅰ						
A:1:2:5	5	5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。		薬学概論Ⅱ						
A:1:2:6	6	6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。		薬学概論Ⅱ			薬局管理学	臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
A:1:2:7	7	7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。		薬理学Ⅱ						
A:1:2:8	8	8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)		薬学概論Ⅱ						
	【③患者安全と薬害の防止】									
A:1:3:1	1	1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	(医療看護連携地域参加型学習) (教養)		薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
A:1:3:2	2	2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
A:1:3:3	3	3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。			薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
A:1:3:4	4	4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。			薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
A:1:3:5	5	5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
A:1:3:6	6	6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	(医療看護連携地域参加型学習) (教養)		薬理学Ⅳ (選)		臨床薬学Ⅵ			
A:1:3:7	7	7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			薬理学Ⅳ (選)					
	【④薬学の歴史と未来】									
A:1:4:1	1	1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論Ⅰ							
A:1:4:2	2	2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論Ⅰ							
A:1:4:3	3	3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論Ⅰ			医療経済学				
A:1:4:4	4	4) 将来の薬剤師と薬学が果たすべき役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論Ⅰ	薬学概論Ⅱ		医療経済学	臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
	(2) 薬剤師に求められる倫理観									
	【①生命倫理】									
A:2:1:1	1	1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)		薬学概論Ⅱ						
A:2:1:2	2	2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。		薬学概論Ⅱ						
A:2:1:3	3	3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学概論Ⅱ						
A:2:1:4	4	4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。		薬学概論Ⅱ						
	【②医療倫理】									
A:2:2:1	1	1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。		薬学概論Ⅱ			臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
A:2:2:2	2	2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。		薬学概論Ⅱ			臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
A:2:2:3	3	3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。		薬学概論Ⅱ						
	【③患者の権利】									

		(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範													
		① 薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範													
B	2	1	1	1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	1	2	2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	1	3	3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	1	4	4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	1	5	5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	1	6	6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	1	7	7) 個人情報の取扱いについて概説できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	1	8	8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
		② 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範													
B	2	2	1	1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	2	2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	3	3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。	薬学概論 I										
B	2	2	4	4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	5	5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。					薬理学 IV (選)	薬事関連法・制度 I 薬事関連法・制度 II					
B	2	2	6	6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	7	7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	8	8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	薬学概論 II 生薬学 I	化学系実習 IV									
B	2	2	9	9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	2	10	10) 健康被害救済制度について説明できる。							臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	2	11	11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。	薬学概論 I						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
		③ 特別な管理を要する薬物等に係る法規範													
B	2	3	1	1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II	臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
B	2	3	2	2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	生薬学 I				薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
B	2	3	3	3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。					薬事関連法・制度 I	薬事関連法・制度 II					
		(3) 社会保障制度と医療経済													
		① 医療、福祉、介護の制度													
B	3	1	1	1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。					医療経済学						
B	3	1	2	2) 医療保険制度について説明できる。					医療経済学						
B	3	1	3	3) 療養担当規則について説明できる。					医療経済学						
B	3	1	4	4) 公費負担医療制度について概説できる。					医療経済学						
B	3	1	5	5) 介護保険制度について概説できる。					医療経済学						
B	3	1	6	6) 薬価基準制度について概説できる。					医療経済学						
B	3	1	7	7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。					薬局管理学						
		② 医薬品と医療の経済性													
B	3	2	1	1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。					医療経済学						
B	3	2	2	2) 国民医療費の動向について概説できる。					医療経済学						
B	3	2	3	3) 後発医薬品とその役割について説明できる。					医療経済学						
B	3	2	4	4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。					医療経済学						
		(4) 地域における薬局と薬剤師													
		① 地域における薬局の役割													
B	4	1	1	1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
B	4	1	2	2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
B	4	1	3	3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
B	4	1	4	4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。					漢方薬物治療学 (選)		薬局管理学 臨床薬学 V	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
B	4	1	5	5) 災害時の薬局の役割について説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
B	4	1	6	6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			
		② 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師													
B	4	2	1	1) 地域包括ケアの理念について説明できる。					医療経済学						
B	4	2	2	2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。							薬局管理学	臨床薬学実務実習 I (事前学習)			

C1:2:4:2	2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	薬学物理化学 I																		
C1:2:4:3	3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	薬学物理化学 I																		
C1:2:4:4	4) 共役反応の原理について説明できる。	薬学物理化学 I																		
	【⑤相平衡】																			
C1:2:5:1	1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	薬学物理化学 I																		
C1:2:5:2	2) 相平衡と相律について説明できる。	薬学物理化学 I	薬学物理化学 III																	
C1:2:5:3	3) 状態図について説明できる。	薬学物理化学 I	薬学物理化学 III																	
	【⑥溶液の性質】																			
C1:2:6:1	1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		薬学物理化学 III																	
C1:2:6:2	2) 活量と活量係数について説明できる。		薬学物理化学 III																	
C1:2:6:3	3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		薬学物理化学 III																	
C1:2:6:4	4) イオン強度について説明できる。		薬学物理化学 III																	
	【⑦電気化学】																			
C1:2:7:1	1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		薬学物理化学 III																	
C1:2:7:2	2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		薬学物理化学 III																	
	(3) 物質の変化																			
	【④反応速度】																			
C1:3:1:1	1) 反応次数と速度定数について説明できる。		薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:2	2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:3	3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:4	4) 代表的な(臈)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:5	5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。	薬学有機化学 II	薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:6	6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		薬学物理化学 II	物理系実習 II																
C1:3:1:7	7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。	薬学有機化学 II	薬学物理化学 II	物理系実習 II																
	C2 化学物質の分析																			
	(1) 分析の基礎																			
	【①分析の基本】																			
C2:1:1:1	1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:1:1:2	2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:1:1:3	3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	薬品分析化学																		
	(2) 溶液中の化学平衡																			
	【①酸・塩基平衡】																			
C2:2:1:1	1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	薬品分析化学 薬学有機化学 I	物理系実習 III																	
C2:2:1:2	2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	薬品分析化学 薬学有機化学 I	物理系実習 III																	
C2:2:1:3	3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:2:1:4	4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
	【②各種の化学平衡】																			
C2:2:2:1	1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:2:2:2	2) 沈殿平衡について説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:2:2:3	3) 酸化還元平衡について説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:2:2:4	4) 分配平衡について説明できる。	薬品分析化学																		
	(3) 化学物質の定性分析・定量分析																			
	【①定性分析】																			
C2:3:1:1	1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬品分析化学																		
C2:3:1:2	2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析化学																		
	【②定量分析 (容量分析・重量分析)】																			
C2:3:2:1	1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:3:2:2	2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:3:2:3	3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:3:2:4	4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:3:2:5	5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	薬品分析化学	物理系実習 III																	
C2:3:2:6	6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析化学																		

【②有機化合物の立体構造】												
C3:1:2:1	1)	構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:1:2:2	2)	キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	薬学有機化学 I									
C3:1:2:3	3)	エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:1:2:4	4)	ラセミ体とメソ体について説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:1:2:5	5)	絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	薬学有機化学 I									
C3:1:2:6	6)	炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E,Z 異性) について説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:1:2:7	7)	フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	薬学有機化学 I									
C3:1:2:8	8)	エタン、ブタン の立体配座とその安定性について説明できる。	薬学有機化学 I									
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応												
【①アルカン】												
C3:2:1:1	1)	アルカンの基本的な性質について説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:2:1:2	2)	アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	薬学有機化学 I									
C3:2:1:3	3)	シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:2:1:4	4)	シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	薬学有機化学 I									
C3:2:1:5	5)	置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	薬学有機化学 I									
【②アルケン・アルキン】												
C3:2:2:1	1)	アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
C3:2:2:2	2)	アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:2:2:3	3)	アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	薬学有機化学 II									
【③芳香族化合物】												
C3:2:3:1	1)	代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
C3:2:3:2	2)	芳香族性の概念を説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
C3:2:3:3	3)	芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:2:3:4	4)	代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:2:3:5	5)	代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	薬学有機化学 II									
(3) 官能基の性質と反応												
【①概説】												
C3:3:1:1	1)	代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:3:1:2	2)	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系実習 I								
【②有機ハロゲン化合物】												
C3:3:2:1	1)	有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
C3:3:2:2	2)	求核置換反応の特徴について説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:3:2:3	3)	脱離反応の特徴について説明できる。	薬学有機化学 II									
【③アルコール・フェノール・エーテル】												
C3:3:3:1	1)	アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
C3:3:3:2	2)	エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】												
C3:3:4:1	1)	アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:3:4:2	2)	カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 II									
C3:3:4:3	3)	カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 II									
【⑤アミン】												
C3:3:5:1	1)	アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
【⑥電子効果】												
C3:3:6:1	1)	官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	薬学有機化学 I 薬学有機化学 II									
【⑦酸性度・塩基性度】												
C3:3:7:1	1)	アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	薬学有機化学 I									
C3:3:7:2	2)	含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	薬学有機化学 I									
(4) 化学物質の構造決定												
【①核磁気共鳴 (NMR)】												

C3:4:1:1	1) 1H および 13C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:1:2	2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:1:3	3) 1H NMR の積分値の意味を説明できる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:1:4	4) 1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:1:5	5) 代表的な化合物の部分構造を 1H NMR から決定できる。(技能)		機器分析化学	化学系実習 I					
【②赤外吸収 (IR)】									
C3:4:2:1	1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析化学	化学系実習 I					
C3:4:2:2	2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析化学	化学系実習 I					
【③質量分析】									
C3:4:3:1	1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:3:2	2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:3:3	3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。		機器分析化学	化学系実習 I	構造生物学 (選)				
C3:4:3:4	4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		機器分析化学	化学系実習 I					
【④総合演習】									
C3:4:4:1	1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		化学系実習 I						
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質									
【①無機化合物・錯体】									
C3:5:1:1	1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		薬学無機化学						
C3:5:1:2	2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		薬学無機化学						
C3:5:1:3	3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		薬学無機化学						
C3:5:1:4	4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		薬学無機化学						
C3:5:1:5	5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。		薬学無機化学						
C4 生体分子・医薬品の化学による理解									
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質									
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】									
C4:1:1:1	1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づく化学的性質を説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学 II		構造生物学 (選) 生物有機化学	生物系実習 I ~ IV			
C4:1:1:2	2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学 II		構造生物学 (選)	生物有機化学			
【②生体内で機能する小分子】									
C4:1:2:1	1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	基礎生物化学			生物有機化学				
C4:1:2:2	2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。				生物有機化学				
C4:1:2:3	3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		薬学無機化学						
C4:1:2:4	4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。		薬学無機化学						
(2) 生体反応の化学による理解									
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】									
C4:2:1:1	1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。				生物有機化学	生物系実習 I ~ IV			
C4:2:1:2	2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。				生物有機化学	生物系実習 I ~ IV			
【②酵素阻害剤と作用様式】									
C4:2:2:1	1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学 I		医薬品化学	生物有機化学			
C4:2:2:2	2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学 I		医薬品化学	生物有機化学			
C4:2:2:3	3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。		生物薬品化学 I		医薬品化学	生物有機化学			
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】									
C4:2:3:1	1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学 I	薬理学 II	薬理学 IV (選)	医療機能系実習 II			
C4:2:3:2	2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。				医薬品化学	生物有機化学			
【④生体内で起こる有機反応】									
C4:2:4:1	1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。				生物有機化学				
C4:2:4:2	2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。				医薬品化学	生物有機化学			
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用									
【①医薬品と生体分子の相互作用】									
C4:3:1:1	1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。				医薬品化学				
【②医薬品の化学構造に基づく性質】									

C4:3:2:1	1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。				医薬品化学				
C4:3:2:2	2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				医薬品化学				
【③医薬品のコンポーネント】									
C4:3:3:1	1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				医薬品化学				
C4:3:3:2	2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。				医薬品化学				
C4:3:3:3	3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				医薬品化学				
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】									
C4:3:4:1	1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	基礎生物化学			細胞生物学（選） 医薬品化学	生物有機化学	臨床薬学VI		
C4:3:4:2	2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
C4:3:4:3	3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				細胞生物学（選）	医薬品化学			
C4:3:4:4	4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				細胞生物学（選）	医薬品化学			
C4:3:4:5	5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				細胞生物学（選）	医薬品化学			
C4:3:4:6	6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】									
C4:3:5:1	1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
C4:3:5:2	2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
C4:3:5:3	3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
C4:3:5:4	4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
C4:3:5:5	5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学				
【⑥DNAに作用する医薬品の構造と性質】									
C4:3:6:1	1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				医薬品化学		臨床薬学VI		
C4:3:6:2	2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学		臨床薬学VI		
C4:3:6:3	3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学		臨床薬学VI		
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】									
C4:3:7:1	1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジジンなど）の特徴を説明できる。	薬理学 I			薬理学 III	医薬品化学			
C5 自然が生み出す薬物									
（1）薬になる動植物									
【①薬用植物】									
C5:1:1:1	1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。		生薬学 I						
C5:1:1:2	2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）		生薬学 I	化学系実習IV					
C5:1:1:3	3) 植物の主な内部形態について説明できる。		生薬学 I						
C5:1:1:4	4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。		生薬学 I						
【②生薬の基原】									
C5:1:2:1	1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学 I						
【③生薬の用途】									
C5:1:3:1	1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学 I						
C5:1:3:2	2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学 I		漢方薬物治療学（選）		臨床薬学 V		
【④生薬の同定と品質評価】									
C5:1:4:1	1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学 I						
C5:1:4:2	2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学 I						
C5:1:4:3	3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		生薬学 I	化学系実習IV					
C5:1:4:4	4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学 I	化学系実習IV					
C5:1:4:5	5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学 I	化学系実習IV					
（2）薬の宝庫としての天然物									
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】									
C5:2:1:1	1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学 II						
C5:2:1:2	2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学 II						
C5:2:1:3	3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学 II						
C5:2:1:4	4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学 II						

C6:3:4:2	2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		細胞生物学(選)						
	(4) 生命情報を担う遺伝子										
	【①概論】										
C6:4:1:1	1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ		細胞生物学(選)	生物系実習Ⅰ～Ⅳ					
C6:4:1:2	2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	基礎生物化学			細胞生物学(選)	生物系実習Ⅰ～Ⅳ					
	【②遺伝情報を担う分子】										
C6:4:2:1	1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	基礎生物化学			細胞生物学(選)						
C6:4:2:2	2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンなど)を説明できる。		生物薬品化学Ⅰ		細胞生物学(選)						
C6:4:2:3	3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ		細胞生物学(選)						
	【③遺伝子の複製】										
C6:4:3:1	1) DNAの複製の過程について説明できる。		生物薬品化学Ⅰ		細胞生物学(選)						
	【④転写・翻訳の過程と調節】										
C6:4:4:1	1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。		生物薬品化学Ⅰ		構造生物学(選)	細胞生物学(選)					
C6:4:4:2	2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。				構造生物学(選)	細胞生物学(選)					
C6:4:4:3	3) 転写因子による転写制御について説明できる。		生物薬品化学Ⅰ		構造生物学(選)	細胞生物学(選)					
C6:4:4:4	4) RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ		構造生物学(選)	細胞生物学(選)					
C6:4:4:5	5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎生物化学	生物薬品化学Ⅰ		構造生物学(選)	細胞生物学(選)					
	【⑤遺伝子の変異・修復】										
C6:4:5:1	1) DNAの変異と修復について説明できる。		生物薬品化学Ⅰ		細胞生物学(選)						
	【⑥組換えDNA】										
C6:4:6:1	1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。	基礎生物化学				生物系実習Ⅰ～Ⅳ					
C6:4:6:2	2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。		機能形態学Ⅱ			生物系実習Ⅰ～Ⅳ					
	(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系										
	【①概論】										
C6:5:1:1	1) エネルギー代謝の概要を説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		細胞生物学(選)						
	【②ATPの産生と糖質代謝】										
C6:5:2:1	1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
C6:5:2:2	2) クエン酸回路(TCAサイクル)について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
C6:5:2:3	3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
C6:5:2:4	4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
C6:5:2:5	5) 糖新生について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
	【③脂質代謝】										
C6:5:3:1	1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
C6:5:3:2	2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学	細胞生物学(選)					
	【④飢餓状態と飽食状態】										
C6:5:4:1	1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学						
C6:5:4:2	2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学						
	【⑤その他の代謝系】										
C6:5:5:1	1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学						
C6:5:5:2	2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学						
C6:5:5:3	3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生物薬品化学Ⅱ		衛生化学						
	(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達										
	【①概論】										
C6:6:1:1	1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		機能形態学Ⅱ		細胞生物学(選)						
	【②細胞内情報伝達】										
C6:6:2:1	1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅰ 基礎生物化学	薬理学Ⅰ		細胞生物学(選) 薬理学Ⅲ	病態生化学					
C6:6:2:2	2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅰ 基礎生物化学	薬理学Ⅰ		細胞生物学(選) 薬理学Ⅲ	病態生化学					
C6:6:2:3	3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	基礎生物化学	薬理学Ⅰ		細胞生物学(選) 薬理学Ⅲ	病態生化学					
C6:6:2:4	4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	基礎生物化学	薬理学Ⅰ		細胞生物学(選) 薬理学Ⅲ	病態生化学					
C6:6:2:5	5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		機能形態学Ⅱ	薬理学Ⅰ	細胞生物学(選) 薬理学Ⅲ	病態生化学					

【③細胞間コミュニケーション】									
C6:6:3:1	1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		機能形態学Ⅱ		細胞生物学(選)				
C6:6:3:2	2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅱ		細胞生物学(選)				
(7) 細胞の分裂と死									
【①細胞分裂】									
C6:7:1:1	1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ			細胞生物学(選)				
C6:7:1:2	2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	機能形態学Ⅰ			細胞生物学(選)				
【②細胞死】									
C6:7:2:1	1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	機能形態学Ⅰ							
【③がん細胞】									
C6:7:3:1	1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。				衛生化学		臨床薬学Ⅳ		
C6:7:3:2	2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。				衛生化学		臨床薬学Ⅳ		
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節									
(1) 人体の成り立ち									
【①遺伝】									
C7:1:1:1	1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	基礎生物化学	機能形態学Ⅱ		細胞生物学(選)				
C7:1:1:2	2) 遺伝子多型について概説できる。		機能形態学Ⅱ		医薬品代謝				
C7:1:1:3	3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態生化学				
【②発生】									
C7:1:2:1	1) 個体発生について概説できる。		機能形態学Ⅱ						
C7:1:2:2	2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。		機能形態学Ⅱ						
【③器官系概論】									
C7:1:3:1	1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅱ						
C7:1:3:2	2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅱ						
C7:1:3:3	3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)				医原機能系実習Ⅰ				
C7:1:3:4	4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)				生物系実習Ⅰ～Ⅳ				
【④神経系】									
C7:1:4:1	1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ							
C7:1:4:2	2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ							
【⑤骨格系・筋肉系】									
C7:1:5:1	1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学Ⅰ							
C7:1:5:2	2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ							
【⑥皮膚】									
C7:1:6:1	1) 皮膚について概説できる。	機能形態学Ⅰ					臨床薬学Ⅲ		
【⑦循環器系】									
C7:1:7:1	1) 心臓について概説できる。		機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ	臨床薬理学Ⅰ			
C7:1:7:2	2) 血管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ	臨床薬理学Ⅰ			
C7:1:7:3	3) リンパ管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ						
【⑧呼吸器系】									
C7:1:8:1	1) 肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床薬理学Ⅱ				
【⑨消化器系】									
C7:1:9:1	1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床薬理学Ⅱ				
C7:1:9:2	2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床薬理学Ⅱ				
【⑩泌尿器系】									
C7:1:10:1	1) 泌尿器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ						
【⑪生殖器系】									
C7:1:11:1	1) 生殖器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ						
【⑫内分泌系】									
C7:1:12:1	1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			病態生化学	臨床薬学Ⅲ			
【⑬感覚器系】									
C7:1:13:1	1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学Ⅰ							
【⑭血液・造血器系】									

C7:1:14:1	1) 血液・造血器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ	臨床薬理学Ⅰ							
	(2) 生体機能の調節												
	【①神経による調節機構】												
C7:2:1:1	1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ	薬理学Ⅰ	薬理学Ⅱ									
C7:2:1:2	2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ	薬理学Ⅰ	薬理学Ⅱ									
C7:2:1:3	3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学Ⅰ	薬理学Ⅱ										
C7:2:1:4	4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅱ									
	【②ホルモン・内分泌系による調節機構】												
C7:2:2:1	1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。				薬理学Ⅲ	病態生化学							
	【③オータコイドによる調節機構】												
C7:2:3:1	1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学Ⅰ			病態生化学							
	【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】												
C7:2:4:1	1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。					免疫学							
	【⑤血圧の調節機構】												
C7:2:5:1	1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ	臨床薬理学Ⅰ							
	【⑥血糖の調節機構】												
C7:2:6:1	1) 血糖の調節機構について概説できる。					病態生化学							
	【⑦体液の調節】												
C7:2:7:1	1) 体液の調節機構について概説できる。				薬理学Ⅲ	病態生化学							
C7:2:7:2	2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。				薬理学Ⅲ	病態生化学							
	【⑧体温の調節】												
C7:2:8:1	1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ				医療薬学Ⅰ							
	【⑨血液凝固・線溶系】												
C7:2:9:1	1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ 臨床薬理学Ⅰ	医療薬学Ⅰ							
	【⑩性周期の調節】												
C7:2:10:1	1) 性周期の調節機構について概説できる。					病態生化学							
	C8 生体防御と微生物												
	(1) 身体をまもる												
	【①生体防御反応】												
C8:1:1:1	1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:1:2	2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:1:3	3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:1:4	4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
	【②免疫を担当する組織・細胞】												
C8:1:2:1	1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:2:2	2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		機能形態学Ⅱ 微生物薬品学	物理系実習Ⅲ	免疫学								
C8:1:2:3	3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		微生物薬品学		免疫学								
	【③分子レベルで見た免疫のしくみ】												
C8:1:3:1	1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:3:2	2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:3:3	3) T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:3:4	4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	基礎生物化学	機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:1:3:5	5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
	(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用												
	【①免疫応答の制御と破綻】												
C8:2:1:1	1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学									
C8:2:1:2	2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		機能形態学Ⅱ	微生物薬品学	免疫学								
C8:2:1:3	3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		微生物薬品学		免疫学								
C8:2:1:4	4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		微生物薬品学		免疫学			臨床薬学Ⅲ					
C8:2:1:5	5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		微生物薬品学		免疫学								
C8:2:1:6	6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		微生物薬品学		免疫学								
	【②免疫反応の利用】												

C8:2:2:1	1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキシソイド、混合ワクチンなど)について説明できる。		微生物薬品学		細胞生物学(選)	免疫学 公衆衛生学 I					
C8:2:2:2	2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。				免疫学						
C8:2:2:3	3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。				免疫学		臨床薬学 IV				
C8:2:2:4	4) 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA法、ウエスタンブロット法など)を実施できる。(技能)				生物系実習 I 生物系実習 II	生物系実習 IV					
	(3) 微生物の基本										
	【① 総論】										
C8:3:1:1	1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物薬品学								
	【② 細菌】										
C8:3:2:1	1) 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物薬品学								
C8:3:2:2	2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物薬品学								
C8:3:2:3	3) 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物薬品学								
C8:3:2:4	4) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物薬品学								
C8:3:2:5	5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物薬品学								
C8:3:2:6	6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物薬品学								
	【③ ウイルス】										
C8:3:3:1	1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物薬品学								
	【④ 真菌・原虫・蠕虫】										
C8:3:4:1	1) 真菌の性状を概説できる。		微生物薬品学								
C8:3:4:2	2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物薬品学								
	【⑤ 消毒と滅菌】										
C8:3:5:1	1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物薬品学			生物系実習 III					
C8:3:5:2	2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物薬品学			生物系実習 III					
	【⑥ 検出方法】										
C8:3:6:1	1) グラム染色を実施できる。(技能)					生物系実習 III					
C8:3:6:2	2) 無菌操作を実施できる。(技能)					生物系実習 III					
C8:3:6:3	3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)					生物系実習 III					
	(4) 病原体としての微生物										
	【① 感染の成立と共生】										
C8:4:1:1	1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:1:2	2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
	【② 代表的な病原体】										
C8:4:2:1	1) DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:2	2) RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLVなど)について概説できる。	基礎生物化学	微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:3	3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:4	4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ヒソバ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:5	5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:6	6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:7	7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:8	8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白菌など)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
C8:4:2:9	9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物薬品学					臨床薬学 IV			
	D 衛生薬学										
	D1 健康										
	(1) 社会・集団と健康										
	【① 健康と疾病の概念】										
D1:1:1:1	1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。					公衆衛生学 I 公衆衛生学 II(選)	医療薬学 I				
	【② 保健統計】										
D1:1:2:1	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。					公衆衛生学 I	公衆衛生学 II(選)				
D1:1:2:2	2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。					公衆衛生学 I	公衆衛生学 II(選)				

D2:1:1:1	1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				衛生化学				
D2:1:1:2	2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。				衛生化学				
D2:1:1:3	3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。				衛生化学				
D2:1:1:4	4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。				衛生化学				
D2:1:1:5	5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)				衛生化学				
D2:1:1:6	6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				衛生化学				
D2:1:1:7	7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。				衛生化学				
【②化学物質の安全性評価と適正使用】									
D2:1:2:1	1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)				衛生化学	生物系実習Ⅱ			
D2:1:2:2	2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。				衛生化学				
D2:1:2:3	3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。				衛生化学				
D2:1:2:4	4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。				衛生化学				
D2:1:2:5	5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。				衛生化学	環境衛生学			
【③化学物質による発がん】									
D2:1:3:1	1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。				衛生化学				
D2:1:3:2	2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。				衛生化学				
D2:1:3:3	3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。				衛生化学				
【④放射線の生体への影響】									
D2:1:4:1	1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。				放射薬品学				
D2:1:4:2	2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。				放射薬品学				
D2:1:4:3	3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。				放射薬品学				
D2:1:4:4	4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。				環境衛生学				
(2) 生活環境と健康									
【①地球環境と生態系】									
D2:2:1:1	1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				環境衛生学				
D2:2:1:2	2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。				環境衛生学				
D2:2:1:3	3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。				環境衛生学				
D2:2:1:4	4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。				環境衛生学				
D2:2:1:5	5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)				生物系実習Ⅱ				
【②環境保全と法的規制】									
D2:2:2:1	1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				環境衛生学				
D2:2:2:2	2) 環境基本法の理念を説明できる。				環境衛生学				
D2:2:2:3	3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。				環境衛生学				
【③水環境】									
D2:2:3:1	1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				環境衛生学				
D2:2:3:2	2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。				環境衛生学				
D2:2:3:3	3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)				環境衛生学	生物系実習Ⅱ			
D2:2:3:4	4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				環境衛生学				
D2:2:3:5	5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)				環境衛生学	生物系実習Ⅱ			
D2:2:3:6	6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				環境衛生学				
【④大気環境】									
D2:2:4:1	1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。				環境衛生学				
D2:2:4:2	2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)				環境衛生学	生物系実習Ⅱ			
D2:2:4:3	3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				環境衛生学				
【⑤室内環境】									
D2:2:5:1	1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)				環境衛生学	生物系実習Ⅱ			
D2:2:5:2	2) 室内環境と健康との関係について説明できる。				環境衛生学				
【⑥廃棄物】									
D2:2:6:1	1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。				環境衛生学				
D2:2:6:2	2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				環境衛生学				
D2:2:6:3	3) マニフェスト制度について説明できる。				環境衛生学				
E 医療薬学									

		E1 薬の作用と体の変化									
		(1) 薬の作用									
		【①薬の作用】									
E1	1	1	1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I						
E1	1	1	2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学 I		薬理学 III				
E1	1	1	3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャンネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	基礎生物化学	薬理学 I		薬理学 III				
E1	1	1	4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I		薬理学 III				
E1	1	1	5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1~5参照)		薬理学 I		薬理学 III				
E1	1	1	6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬理学 I	薬剤学 I	医薬品代謝学	薬理学 III			
E1	1	1	7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。				臨床薬理学 II		臨床薬学 III	臨床薬学 IV	
E1	1	1	8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)				医薬品代謝学	薬理学 IV(選)			
E1	1	1	9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I	薬理学 II					
		【②動物実験】									
E1	1	2	1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		機能形態学 II		医療機能系実習 I	医療機能系実習 II			
E1	1	2	2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				医療機能系実習 I	医療機能系実習 II			
E1	1	2	3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)				医療機能系実習 I	医療機能系実習 II			
		【③日本薬局方】									
E1	1	3	1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				医療機能系実習 II				
		(2) 身体の病的変化を知る									
		【①症候】									
E1	2	1	1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害				病態生化学	医療薬学 I			
		【②病態・臨床検査】									
E1	2	2	1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				医療薬学 I				
E1	2	2	2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	機能形態学 II			医療薬学 I				
E1	2	2	3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				医療薬学 I				
E1	2	2	4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				医療薬学 I				
E1	2	2	5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				医療薬学 I				
E1	2	2	6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	機能形態学 II			医療薬学 I				
E1	2	2	7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				医療薬学 I				
E1	2	2	8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	機能形態学 II			医療薬学 I				
		(3) 薬物治療の位置づけ									
E1	2	3	1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。				臨床薬理学 II		臨床薬学 III	臨床薬学 IV	
E1	2	3	2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)				臨床薬理学 I	臨床薬理学 II	臨床薬学 III	臨床薬学 IV	
		(4) 医薬品の安全性									
E1	2	4	1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学 I						
E1	2	4	2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。				薬理学 IV(選)				
E1	2	4	3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害				臨床薬理学 II		臨床薬学 III	臨床薬学 IV	
E1	2	4	4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)				薬理学 IV(選)				
		E2 薬理・病態・薬物治療									
		(1) 神経系の疾患と薬									
		【①自律神経系に作用する薬】									
E2	1	1	1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学 I						
E2	1	1	2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学 I						
E2	1	1	3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学 I						

E2:1:1:4	4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療機能系実習 I					
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】									
E2:1:2:1	1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬理学 I							
E2:1:2:2	2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬理学 I							
E2:1:2:3	3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療機能系実習 II					
E2:1:2:4	4) 以下の疾患について説明できる。進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)						臨床薬学 III		
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】									
E2:1:3:1	1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学 II		医療機能系実習 II					
E2:1:3:2	2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	薬理学 II					臨床薬学 III		
E2:1:3:3	3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:4	4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:5	5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:6	6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:7	7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:8	8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:9	9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:10	10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II							
E2:1:3:11	11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。	薬理学 I	薬理学 II						
E2:1:3:12	12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療機能系実習 II					
E2:1:3:13	13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)	薬理学 II							
E2:1:3:14	14) 以下の疾患について説明できる。脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	薬理学 II							
【④化学構造と薬効】									
E2:1:4:1	1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬理学 II							
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬									
【①抗炎症薬】									
E2:2:1:1	1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学 IV (選)	病態生化学				
E2:2:1:2	2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。	薬理学 II							
E2:2:1:3	3) 創傷治癒の過程について説明できる。			薬理学 IV (選)					
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】									
E2:2:2:1	1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			免疫学					
E2:2:2:2	2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			免疫学					
E2:2:2:3	3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)			免疫学					
E2:2:2:4	4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症症候群、薬疹			免疫学		臨床薬学 III	臨床薬学 IV		
E2:2:2:5	5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			免疫学		臨床薬学 III			
E2:2:2:6	6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、パーチエット病					臨床薬学 III			
E2:2:2:7	7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群			免疫学		臨床薬学 III			
E2:2:2:8	8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)			免疫学					
E2:2:2:9	9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			免疫学		臨床薬学 III			
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】									
E2:2:3:1	1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					臨床薬学 III			

E2	4	2	1	1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	2	2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	3	3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	4	4) 肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	5	5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	6	6) 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
E2	4	2	7	7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ			臨床薬学Ⅳ							
E2	4	2	8	8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ			臨床薬学Ⅳ							
E2	4	2	9	9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						臨床薬理学Ⅱ										
【③化学構造と薬効】																				
E2	4	3	1	1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						臨床薬理学Ⅱ										
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬																				
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】																				
E2	5	1	1	1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						病態生化学			臨床薬学Ⅲ							
E2	5	1	2	2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬理学Ⅲ		臨床薬理学Ⅰ	臨床薬学Ⅲ							
E2	5	1	3	3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ							
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】																				
E2	5	2	1	1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。						病態生化学										
E2	5	2	2	2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						病態生化学			臨床薬学Ⅲ							
E2	5	2	3	3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						病態生化学			臨床薬学Ⅲ							
E2	5	2	4	4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬理学Ⅲ	病態生化学		臨床薬学Ⅲ							
E2	5	2	5	5) 以下の疾患について説明できる。先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)						病態生化学			臨床薬学Ⅲ							
【③化学構造と薬効】																				
E2	5	3	1	1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						医薬品化学										
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬																				
【①眼疾患の薬、病態、治療】																				
E2	6	1	1	1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学Ⅰ								臨床薬学Ⅲ							
E2	6	1	2	2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	1	3	3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	1	4	4) 以下の疾患について概説できる。結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症									臨床薬学Ⅲ							
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】																				
E2	6	2	1	1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	2	2	2) 以下の疾患について概説できる。アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎、扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎									臨床薬学Ⅲ							
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】																				
E2	6	3	1	1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2(2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	3	2	2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2(7)【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	3	3	3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ							
E2	6	3	4	4) 以下の疾患について概説できる。蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)									臨床薬学Ⅲ							
【④化学構造と薬効】																				
E2	6	4	1	1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。									臨床薬学Ⅲ							

		(7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬											
		【① 抗菌薬】											
E2	7	1	1	1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST合剤を含む)、その他の抗菌薬	微生物薬品学								
E2	7	1	2	2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。	微生物薬品学		免疫学	公衆衛生学 I 公衆衛生学 II (選)					
		【② 抗菌薬の耐性】											
E2	7	2	1	1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。	微生物薬品学								
		【③ 細菌感染症の薬、病態、治療】											
E2	7	3	1	1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎	微生物薬品学		免疫学			臨床薬学 IV			
E2	7	3	2	2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎	微生物薬品学		環境衛生学	免疫学		臨床薬学 IV			
E2	7	3	3	3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			免疫学			臨床薬学 IV			
E2	7	3	4	4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			免疫学			臨床薬学 IV			
E2	7	3	5	5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。梅毒、淋病、クラミジア症等	微生物薬品学		免疫学	公衆衛生学 I		臨床薬学 IV			
E2	7	3	6	6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						臨床薬学 IV			
E2	7	3	7	7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病	微生物薬品学		免疫学			臨床薬学 IV			
E2	7	3	8	8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						臨床薬学 IV			
E2	7	3	9	9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等	微生物薬品学		免疫学	公衆衛生学 I		臨床薬学 IV			
E2	7	3	10	10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	微生物薬品学		免疫学	公衆衛生学 I		臨床薬学 IV			
		【④ ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】											
E2	7	4	1	1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	微生物薬品学		免疫学						
E2	7	4	2	2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	微生物薬品学		免疫学						
E2	7	4	3	3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	微生物薬品学		免疫学						
E2	7	4	4	4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)	微生物薬品学		免疫学						
E2	7	4	5	5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	微生物薬品学		免疫学						
E2	7	4	6	6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルトヤコブ) 病	微生物薬品学					臨床薬学 IV			
		【⑤ 真菌感染症の薬、病態、治療】											
E2	7	5	1	1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	微生物薬品学								
E2	7	5	2	2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症	微生物薬品学			臨床薬理学 II		臨床薬学 IV			
		【⑥ 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】											
E2	7	6	1	1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢	微生物薬品学		環境衛生学	免疫学					
E2	7	6	2	2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。回虫症、蟻虫症、アニサキス症	微生物薬品学		環境衛生学	免疫学		臨床薬学 IV			
		【⑦ 悪性腫瘍】											
E2	7	7	1	1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。						臨床薬学 IV			
E2	7	7	2	2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						臨床薬学 IV			
E2	7	7	3	3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。						臨床薬学 IV			
		【⑧ 悪性腫瘍の薬、病態、治療】											
E2	7	8	1	1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍生物活性物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬						臨床薬学 IV			
E2	7	8	2	2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						臨床薬学 IV			

E2:7:8:3	3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。									臨床薬学Ⅳ				
E2:7:8:4	4) 代表的ながん化学療法剤のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。									臨床薬学Ⅳ				
E2:7:8:5	5) 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)								臨床薬理学Ⅰ					
E2:7:8:6	6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。								臨床薬理学Ⅰ					
E2:7:8:7	7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ				
E2:7:8:8	8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌								臨床薬理学Ⅱ		臨床薬学Ⅳ			
E2:7:8:9	9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。								臨床薬理学Ⅱ		臨床薬学Ⅳ			
E2:7:8:10	10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍									臨床薬学Ⅲ				
E2:7:8:11	11) 以下の生殖系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌									臨床薬学Ⅲ				
E2:7:8:12	12) 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ				
E2:7:8:13	13) 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									臨床薬学Ⅲ	臨床薬学Ⅳ			
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】														
E2:7:9:1	1) がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。										臨床薬学Ⅲ			
E2:7:9:2	2) がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。										臨床薬学Ⅲ			
【@@化学構造と薬効】														
E2:7:10:1	1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。								微生物薬理学		臨床薬学Ⅳ			
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報														
【①組換え体医薬品】														
E2:8:1:1	1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。										臨床薬学Ⅳ			
E2:8:1:2	2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。										臨床薬学Ⅳ			
E2:8:1:3	3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。										臨床薬学Ⅳ			
【②遺伝子治療】														
E2:8:2:1	1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)										臨床薬学Ⅳ			
【③細胞、組織を利用した移植医療】														
E2:8:3:1	1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)										臨床薬学Ⅲ			
E2:8:3:2	2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。										臨床薬学Ⅲ			
E2:8:3:3	3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。										臨床薬学Ⅲ			
E2:8:3:4	4) 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。								機能形態学Ⅱ		臨床薬学Ⅲ			
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション														
E2:9:-1	1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。								漢方薬物治療学(選)		薬局管理学	臨床薬学Ⅴ		
E2:9:-2	2) 要指導医薬品および一般用医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。								漢方薬物治療学(選)		薬局管理学	臨床薬学Ⅴ		
E2:9:-3	3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。									薬局管理学	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
E2:9:-4	4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
E2:9:-5	5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
E2:9:-6	6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
E2:9:-7	7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
E2:9:-8	8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
(10) 医療の中の漢方薬														
【①漢方薬の基礎】														
E2:10:1:1	1) 漢方の特徴について概説できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			
E2:10:1:2	2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。陰陽、虚实、寒熱、表裏、気血水、証								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			
E2:10:1:3	3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			
E2:10:1:4	4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			
【②漢方薬の応用】														
E2:10:2:1	1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			
E2:10:2:2	2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。								漢方薬物治療学(選)		臨床薬学Ⅴ			

E2:10:2:3	3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。				漢方薬物治療学 (選)		臨床薬学 V				
【③漢方薬の注意点】											
E2:10:3:1	1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。				漢方薬物治療学 (選)		臨床薬学 V				
(11) 薬物治療の最適化											
【④総合演習】											
E2:11:1:1	1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E2:11:1:2	2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E2:11:1:3	3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3 薬物治療に役立つ情報											
(1) 医薬品情報											
【①情報】											
E3:1:1:1	1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:1:2	2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:1:3	3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:1:4	4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:1:5	5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
【②情報源】											
E3:1:2:1	1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:2:2	2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:2:3	3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:2:4	4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:2:5	5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:2:6	6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
【③収集・評価・加工・提供・管理】											
E3:1:3:1	1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:3:2	2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:3:3	3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報学						
E3:1:3:4	4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
E3:1:3:5	5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。				医薬品情報学		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				
【④EBM (Evidence-based Medicine)】											
E3:1:4:1	1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:4:2	2) 代表的な臨床研究方法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)		医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:4:3	3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3(1)【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)				医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:4:4	4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。				医薬品情報学		公衆衛生学 I				
【⑤生物統計】											
E3:1:5:1	1) 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。	生物統計学 I			医療機能系実習 I	医療機能系実習 II					
E3:1:5:2	2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	生物統計学 I			医療機能系実習 I						
E3:1:5:3	3) 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布)について概説できる。	生物統計学 I			医療機能系実習 I	医療機能系実習 II					
E3:1:5:4	4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	生物統計学 I			医療機能系実習 I	医療機能系実習 II					
E3:1:5:5	5) 二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)	生物統計学 I			医療機能系実習 I	医療機能系実習 II					
E3:1:5:6	6) 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)								
E3:1:5:7	7) 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)								
【⑥臨床研究デザインと解析】											
E3:1:6:1	1) 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)		医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:6:2	2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)		医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:6:3	3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。	生物統計学 I	生物統計学 II (選)		医薬品情報学		公衆衛生学 I				
E3:1:6:4	4) 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。				公衆衛生学 I		臨床薬学実務実習 I (事前学習)				

E4:1:2:5	5) 初回通過効果について説明できる。		薬剤学 I	薬剤学 II	医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
【③分布】													
E4:1:3:1	1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
E4:1:3:2	2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		薬剤学 I										
E4:1:3:3	3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		薬剤学 I										
E4:1:3:4	4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		薬剤学 II										
E4:1:3:5	5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		薬剤学 II										
E4:1:3:6	6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬剤学 II				臨床薬学 VI						
【④代謝】													
E4:1:4:1	1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
E4:1:4:2	2) 薬物代謝の第 I 相反応(酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学								
E4:1:4:3	3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
E4:1:4:4	4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。				医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
E4:1:4:5	5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
【⑤排泄】													
E4:1:5:1	1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬剤学 I	薬剤学 II			臨床薬学 VI						
E4:1:5:2	2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:1:5:3	3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。		薬剤学 II										
E4:1:5:4	4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。		薬剤学 II		医薬品代謝学		臨床薬学 VI						
E4:1:5:5	5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬剤学 II				臨床薬学 VI						
(2) 薬物動態の解析													
【①薬物速度論】													
E4:2:1:1	1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:2:1:2	2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・終口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:2:1:3	3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:2:1:4	4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。		薬剤学 I										
E4:2:1:5	5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:2:1:6	6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】													
E4:2:2:1	1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E4:2:2:2	2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						臨床薬学 VI						
E4:2:2:3	3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)						臨床薬学 VI						
E4:2:2:4	4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。		薬剤学 I				臨床薬学 VI						
E5 製剤化のサイエンス													
(1) 製剤の性質													
【①固形材料】													
E5:1:1:1	1) 粉体の性質について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:1:2	2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:1:3	3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。(c2 (2) 【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)		製剤学 I										
E5:1:1:4	4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:1:5	5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学 I										
【②半固形・液状材料】													
E5:1:2:1	1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:2:2	2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。		製剤学 I										
【③分散系材料】													
E5:1:3:1	1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。(c2 (2) 【②各種の化学平衡】4.参照)		製剤学 I										
E5:1:3:2	2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:3:3	3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。		製剤学 I										
E5:1:3:4	4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学 I										

【④薬物及び製剤材料の物性】												
ES	1	4	1	1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		製剤学 I						
ES	1	4	2	2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。(C1(3)【①反応速度】1~7.参照)		製剤学 I						
ES	1	4	3	3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学 I						
(2) 製剤設計												
【①代表的な製剤】												
ES	2	1	1	1) 製剤化の概要と意義について説明できる。		製剤学 II						
ES	2	1	2	2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学 II						
ES	2	1	3	3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。		製剤学 II						
ES	2	1	4	4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学 II						
ES	2	1	5	5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学 II						
ES	2	1	6	6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。		製剤学 II						
【②製剤化と製剤試験法】												
ES	2	2	1	1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。		製剤学 I						
ES	2	2	2	2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。		製剤学 I						
ES	2	2	3	3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		製剤学 I						
ES	2	2	4	4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。		製剤学 I						
【③生物学的同等性】												
ES	2	3	1	1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。		薬剤学 I	製剤学 II					
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)												
【①DDSの必要性】												
ES	3	1	1	1) DDSの概念と有用性について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	1	2	2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。(プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照)		製剤学 I						
【②コントロールドリリース(放出制御)】												
ES	3	2	1	1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	2	2	2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	2	3	3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。		製剤学 I						
【③ターゲティング(標的指向化)】												
ES	3	3	1	1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	3	2	2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	3	3	3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。		製剤学 I						
【④吸収改善】												
ES	3	4	1	1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	4	2	2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。		製剤学 I						
ES	3	4	3	3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。		製剤学 I						
F 薬学臨床												
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項												
(1) 薬学臨床の基礎												
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項												
F	1	1	1	1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	(医薬看連携地域参加型学習)(教養)	薬学概論 II						
F	1	1	2	2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	(医薬看連携地域参加型学習)(教養)	薬学概論 II						
F	1	1	3	3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)			医療薬学 I			臨床薬学実務実習 I (事前学習)		
【②臨床における心構え】 [A(1)、(2)参照]												
F	1	2	1	1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)	臨床薬学実務実習 II (病院実習)	臨床薬学実務実習 III (保険薬局実習)
F	1	2	2	2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)	臨床薬学実務実習 II (病院実習)	臨床薬学実務実習 III (保険薬局実習)
F	1	2	3	3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)						臨床薬学実務実習 I (事前学習)	臨床薬学実務実習 II (病院実習)	臨床薬学実務実習 III (保険薬局実習)
F	1	2	4	4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)		医療薬学 I				臨床薬学実務実習 I (事前学習)	臨床薬学実務実習 II (病院実習)	臨床薬学実務実習 III (保険薬局実習)
F	1	2	5	5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)		医療薬学 I				臨床薬学実務実習 I (事前学習)	臨床薬学実務実習 II (病院実習)	臨床薬学実務実習 III (保険薬局実習)

F	2	3	8	8) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	3	9	9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	10	10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	11	11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	12	12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	13	13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	14	14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	15	15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	16	16) 注射剤(高力カプラー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	17	17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	18	18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	3	19	19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】														
F	2	4	1	1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	2	2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	3	3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	4	4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	5	5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	6	6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	7	7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	8	8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	4	9	9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	10	10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					医療薬学Ⅰ			臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	11	11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					医療薬学Ⅰ			臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	12	12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					医療薬学Ⅰ			臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	13	13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	14	14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	4	15	15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					医療薬学Ⅰ		臨床薬学Ⅳ	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
【⑤医薬品の供給と管理】														
F	2	5	1	1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	2	2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	3	3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	4	4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	5	5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。					放射薬品学		臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	6	6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	7	7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。					化学系実習Ⅳ		臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			
F	2	5	8	8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。					漢方薬物治療学(道)		臨床薬学Ⅴ	臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)		
F	2	5	9	9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	5	10	10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	5	11	11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	5	12	12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
F	2	5	13	13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)	臨床薬学実務実習Ⅱ(病院実習) 臨床薬学実務実習Ⅲ(保険薬局実習)		
【⑥安全管理】														
F	2	6	1	1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ(事前学習)			

F	2	6	2	2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	3	3) 前) 代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	4	4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	5	5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	6	6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	7	7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。							臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)			
F	2	6	8	8) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	2	6	9	9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	2	6	10	10) 施設内のインシデント (ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	2	6	11	11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	2	6	12	12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	2	6	13	13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	2	6	14	14) 院内での感染対策 (予防、蔓延防止など) について具体的な提案ができる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
				(3) 薬物療法の実践								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
				【①患者情報の把握】										
F	3	1	1	1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	1	2	2) 前) 患者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3 (2) ①参照]								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	1	3	3) 前) 身体所見の観察・測定 (フィジカルアセスメント) の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	1	4	4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	1	5	5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	医療薬学Ⅰ		臨床薬学Ⅳ					臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	1	6	6) 患者・薬局および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	1	7	7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	医療薬学Ⅰ		臨床薬学Ⅳ					臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
				【②医薬品情報の収集と活用】 [E3 (1) 参照]								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	2	1	1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	2	2	2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	2	3	3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	2	4	4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	2	5	5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	2	6	6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
				【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	3	1	1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	2	2) 前) 病態 (肝・腎障害など) や生理的特性 (妊婦・授乳婦、小児、高齢者など) 等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	3	3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	4	4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	5	5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	6	6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。								臨床薬学実務実習Ⅰ (事前学習)		
F	3	3	7	7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	臨床薬理学Ⅱ		臨床薬学Ⅲ	臨床薬学Ⅳ				臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	3	8	8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。	臨床薬理学Ⅱ		臨床薬学Ⅲ	臨床薬学Ⅳ				臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	3	9	9) 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方立案できる。(知識・態度)	臨床薬理学Ⅱ		臨床薬学Ⅲ	臨床薬学Ⅳ				臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	3	10	10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクニカルパスを活用できる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	3	11	11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
F	3	3	12	12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)								臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		
F	3	3	13	13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。								臨床薬学実務実習Ⅱ (病院実習)		
												臨床薬学実務実習Ⅲ (保険薬局実習)		

教育区分	科目名	薬学教育モデル・コアカリキュラム以外の内容 (部分的に含まれる場合は、シラバスの授業計画欄の題目番号と題目を記載)	年次	区分	単位	授業回数	
						コアカリ 以外	全体
教養科目	医薬看護連携地域参加型学習	科目全体（ただし、薬害サリドマイド患者から学ぶ、医療面接ロールプレー、医療安全、臨床体験の授業はモデル・コアカリキュラムの内容に準拠）	1	必修	2	-	-
専門教育 (専門)	【薬学導入科目】						
	薬学概論Ⅱ	5) 社会のニーズに応える新しい薬剤師業務 6) これからの薬学研究について考える	2	必修	1	2	8
	【基礎薬学科目】						
	薬学有機化学Ⅱ	10) 有機金属化合物の反応性と特徴	1	必修	2	1	15
	医薬品化学	1) 医薬品開発の現状・医薬品国際一般名（INN）とシステム 5) 医薬分子と生体内化学反応（プロドラッグ・代謝活性化）：がん分子標的治療薬	3	必修	1	2	7
	【実習科目】						
	物理系実習Ⅱ	A) タンパク質のコンピューターグラフィックス B) NMRによるペプチドの高次構造解析	2	必修	1	2	9
	物理系実習Ⅲ	5) 紫外・可視光による酵素の定量 7) 蛍光法による細胞内カルシウムイオン濃度の測定	2	必修	1	2	9
	化学系実習Ⅰ	1) ガラス細工：ガラス管の切断、引き伸ばし、閉じ方、曲げ方	2	必修	1	1	9
	生物系実習Ⅲ	6) 接合伝達菌の選択培養 7) 接合伝達試験の結果判定 8) 抗生物質の感受性試験 9) 抗生物質の感受性試験の結果判定	3	必修	1	3	9
	医療機能系実習Ⅲ	科目全体	3	必修	1	9	9
	臨床薬学実務実習Ⅰ（事前学習）	1) 障害のある人との関わり方とコミュニケーション（講義1回、演習1回） 2) 病棟における注射の試技（投与器材の使用方法等）と患者対応（演習4回） 3) がん専門薬剤師、緩和ケア専門薬剤師等の活動と具体的症例検討（講義3回、演習2回） 4) 模擬服薬体験による患者指導、残薬管理、薬歴記載による継続的な服薬指導の学習（講義1回、演習4回） 5) 来局者の症候から考える適切な一般用医薬品の選択、受診勧奨、服薬指導（演習4回） 6) 薬局における検体測定、健康相談、在宅に必要なフィジカルアセスメント（演習4回）	4	必修	4	24	138
専門教育 (その他)	【基礎薬学科目】						
	先端薬科学	科目全体	2	選択	7	15	15
	構造生物学	科目全体	3	選択	2	15	15
	細胞生物学	科目全体	3	選択	1	7	7
	有機反応化学Ⅰ	科目全体	2	選択	2	15	15
	有機反応化学Ⅱ	科目全体	2	選択	2	15	15
	有機反応化学Ⅲ	科目全体	2	選択	2	15	15
	有機反応化学Ⅳ	科目全体	3	選択	2	15	15
	【生命薬科学科目】						
	有機金属化学	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	コロイド・高分子科学	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	バイオインフォマティクス	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	ケミカルバイオロジー	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	分子感染症学	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	分子神経科学	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	ドラッグデリバリー論	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	創薬科学・知的財産活用論	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
	分子病態学	科目全体	3	選択 (生命薬科学科目)	1	7	7
【演習科目】							
有機化学演習	科目全体	3	選択	1	7	7	

薬学情報処理演習	科目全体	3	選択	1	7	7
プレゼンテーション演習	科目全体	3	選択	1	8	8
薬学特別演習	科目全体	6	選択	2	集中	集中
【基礎薬学科目（英語）】						
薬学英語Ⅰ	科目全体	2	選択	1	7	7
薬学英語Ⅱ	科目全体	2	選択	1	7	7
薬学英語Ⅲ	科目全体	3	選択	1	7	7
薬学英語Ⅳ	科目全体	3	選択	1	7	7
【コミュニティ・ヘルスケア卒前教育科目】						
コミュニティ・ヘルスケア基礎	科目全体：医療に携わる多職種の実際の業務を知り、多職種連携の重要性を学ぶ。	2	選択	2	15	15
コミュニティ・ヘルスケア応用	科目全体：高齢社会の実態を理解し、医療人に必要なコミュニケーション能力を向上させるための体験学習。	3	選択	2	集中	集中
コミュニティ・ヘルスケア発展	科目全体：地域医療で貢献するために必要な知識や技術の実践的学習を通して、地域医療の課題とその解決策を考察する。	4	選択	2	集中	集中
コミュニティ・ヘルスケア実践	科目全体：在宅支援、病棟業務、地域連携の実際を体験して、薬剤師として地域医療に貢献するために必要な知識・技能・態度を身につける。	5	選択	2	集中	集中

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		65	65	60	60	60	60
入学時の学生数 ²⁾	A	68	66	63	66	61	61
在籍学生数 ³⁾	B	73	60	55	58	58	62
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	4	1	1	0	0	6
	休学による者 D	1	0	0	0	1	3
編入学などによる在籍者数	E	0	1	0	0	1	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	68	58	54	58	56	53
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	100.0%	87.9%	85.7%	87.9%	91.8%	86.9%
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	6.8%	1.7%	1.8%	0.0%	1.7%	14.5%

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
 ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を%で記載してください。

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を%で記載してください。

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	63	68	64	68	73
	休学者数 ²⁾	0	1	1	1	0
	退学者数 ²⁾	3	7	6	3	0
	留年者数 ²⁾	1	1	1	4	0
	進級率 ³⁾	93.7%	86.8%	87.5%	88.2%	100.0%
2年次	在籍者数 ¹⁾	56	60	59	55	60
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	1	1	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	98.2%	98.3%	98.3%	100.0%	100.0%
3年次	在籍者数 ¹⁾	63	55	59	58	55
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	1	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	1
	進級率 ³⁾	98.4%	98.2%	100.0%	100.0%	98.2%
4年次	在籍者数 ¹⁾	63	62	54	59	58
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	1	0	1	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	100.0%	98.4%	100.0%	98.3%	100.0%
5年次	在籍者数 ¹⁾	63	63	61	54	58
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	1
	退学者数 ²⁾	1	0	1	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	98.4%	100.0%	98.4%	100.0%	98.3%

*2018年1年次の「退学者数」欄の「6名」のうち、1名は生命薬科学科への転学科

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		89	71	72	68	62
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B		80	62	64	60	56
卒業率 ²⁾ B/A		89.9%	87.3%	88.9%	88.2%	90.3%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	73	57	59	54	51
	7年	7	4	2	2	3
	8年	0	1	2	2	2
	9年以上	0	0	1	2	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		86	67	69	72	61
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		84.9%	85.1%	85.5%	75.0%	83.6%

- 1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。
なお、卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A)を%で記載してください。
- 3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D)を%で記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	60	60	60	60	65	65	
実入学者数 ¹⁾ B	61	61	66	63	66	68	64
入学定員充足率 ²⁾ B/A	101.7%	101.7%	110.0%	105.0%	101.5%	104.6%	104.1%
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾ C+D+E	0	1	0	0	1	0	0.3
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	1	0	1	0	0.3
	3年次 D	0	0	0	0	0	0.0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0.0

注意: 2018年度と2021年度の2年次編入者各1名は、ともに、本学部生命薬科学科(4年制)からの転学科

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値を%で記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
15名	8名	11名	9(2)名	43名	28名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
2名	1名	2名	0名	5名	4名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
0名	13名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
44名	名	名	44名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
8名	2名	3名	13名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0.0%
60代	7名	0名	0名	0名	7名	16.3%
50代	6名	4名	0名	0名	10名	23.3%
40代	2名	4名	5名	0名	11名	25.6%
30代	0名	0名	6名	7名	13名	30.2%
20代	0名	0名	0名	2名	2名	4.7%
合計	15名	8名	11名	9名	43名	

専任教員の定年年齢:(65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	15名	8名	9名	8名	40名	93.0%
女性	0名	0名	2名	1名	3名	7.0%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間	
薬学科	教授						先端薬科学		2.17	0.07
							薬学有機化学Ⅱ		22.50	0.75
							有機反応化学Ⅳ		22.50	0.75
							医薬品化学		10.50	0.35
							創薬科学・知的財産活用論		3.00	0.10
							化学系実習Ⅰ	◎	36.00	1.20
							創薬生命科学基礎Ⅰ	院	3.00	0.10
							創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	1.50	0.05
							薬化学特論	院	7.50	0.25
							センサーデバイス開発学	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師						薬学有機化学Ⅱ		0.00	0.00
							有機反応化学Ⅳ		0.00	0.00
							医薬品化学		0.00	0.00
							創薬科学・知的財産活用論		0.00	0.00
							有機化学演習		1.50	0.05
							化学系実習Ⅰ	◎	36.00	1.20
							薬化学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計								39.00		
薬学科	講師						薬学有機化学Ⅱ		0.00	0.00
							有機反応化学Ⅳ		0.00	0.00
							医薬品化学		0.00	0.00
							創薬科学・知的財産活用論		1.50	0.05
							有機化学演習		1.50	0.05
							化学系実習Ⅰ	◎	36.00	1.20
							薬化学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計								40.50		
薬学科	教授						薬学概論Ⅰ		1.50	0.05
							先端薬科学		0.75	0.03
							有機反応化学Ⅰ		22.50	0.75
							有機反応化学Ⅲ		22.50	0.75
							薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
							化学系実習Ⅱ	◎	36.00	1.20
							創薬生命科学基礎Ⅰ	院	3.00	0.10
							グリーンケミストリー	院	10.50	0.35
							医薬品産業特論	院	3.00	0.10
							創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	1.50	0.05
薬品合成化学特論	院	10.50	0.35							
授業担当時間の合計								113.25		
薬学科	助教						有機化学演習		1.50	0.05
授業担当時間の合計								1.50		
薬学科	准教授						先端薬科学		0.75	0.03
							薬学有機化学Ⅰ		22.50	0.75
							有機金属化学		10.50	0.35
							有機化学演習		1.50	0.05
							薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
							化学系実習Ⅱ	◎	12.00	0.40
							化学系実習Ⅲ	◎	12.00	0.40
							創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	12.00	0.40
							機能分子構造学特論	院	10.50	0.35
創薬生命科学基礎Ⅰ	院	1.50	0.05							
授業担当時間の合計								84.75		

薬学科	教授	薬品分析化学		0.00	0.00	
		機器分析化学		19.50	0.65	
		放射薬品学		3.00	0.10	
		バイオインフォマティクス		1.50	0.05	
		薬学演習 I		0.75	0.03	
		物理系実習 I	◎	1.00	0.03	
		物理系実習 III	◎	36.00	1.20	
		創薬生命科学特別講義 I	院	1.50	0.05	
		創薬生命科学基礎 II	院	1.50	0.05	
		生体超分子システム解析学特論	院	3.00	0.10	
		薬物動態・超分子解析学特論2	院	3.00	0.10	
		授業担当時間の合計			70.75	
薬学科	准教授	先端薬科学		0.75	0.03	
		薬品分析化学		22.50	0.75	
		機器分析化学		3.00	0.10	
		物理系実習 III	◎	54.00	1.80	
		生体超分子システム解析学特論	院	1.50	0.05	
		薬物動態・超分子解析学特論2	院	1.50	0.05	
		授業担当時間の合計			83.25	
薬学科	助教	物理系実習 III	◎	36.00	1.20	
授業担当時間の合計			36.00			
薬学科	教授	薬学概論 I		1.50	0.05	
		先端薬科学		0.75	0.03	
		生薬学 I		22.50	0.75	
		漢方薬物治療学		22.50	0.75	
		臨床薬学 V		22.50	0.75	
		基礎薬学演習		1.50	0.05	
		薬学演習 I		0.75	0.03	
		薬学演習 II		0.75	0.03	
		薬学特別演習		1.50	0.05	
		化学系実習 IV	◎	36.00	1.20	
		創薬生命科学基礎 III	院	1.50	0.05	
		薬用資源学特論	院	4.50	0.15	
		化学物質と環境	院	1.50	0.05	
		授業担当時間の合計			117.75	
		薬学科	准教授	生薬学 II		22.50
有機化学演習				3.00	0.10	
化学系実習 IV	◎			69.00	2.30	
薬用資源学特論	院			3.00	0.10	
授業担当時間の合計				97.50		
薬学科	講師	薬学英語 III		4.50	0.15	
		化学系実習 IV	◎	72.00	2.40	
		薬用資源学特論	院	3.00	0.10	
授業担当時間の合計			79.50			
薬学科	教授	先端薬科学		0.75	0.03	
		衛生科学		12.00	0.40	
		環境衛生学		10.50	0.35	
		免疫学		12.00	0.40	
		公衆衛生学 I		3.00	0.10	
		公衆衛生学 II		1.50	0.05	
		薬学英語 I		0.00	0.00	
		薬学英語 II		0.00	0.00	
		臨床薬学 IV		6.00	0.20	
		生物系実習 II	◎	24.00	0.80	
		創薬生命科学基礎 III	院	1.50	0.05	
		医薬品産業特論	院	1.50	0.05	
		衛生化学特論	院	4.50	0.15	
		化学物質と環境	院	1.50	0.05	
		授業担当時間の合計			78.75	

薬学科	准教授	衛生化学		10.50	0.35	
		環境衛生学		12.00	0.40	
		免疫学		4.50	0.15	
		公衆衛生学 I		3.00	0.10	
		公衆衛生学 II		1.50	0.05	
		薬学演習 I		1.50	0.05	
		生物系実習 II	◎	24.00	0.80	
		衛生化学特論	院	3.00	0.10	
		授業担当時間の合計			60.00	
薬学科	教授	先端薬科学		0.75	0.03	
		機能形態学 I		9.00	0.30	
		生物薬品化学 I		19.50	0.65	
		生物薬品化学 II		13.50	0.45	
		臨床薬学 III		3.00	0.10	
		生物系実習 I	◎	1.00	0.03	
		創薬生命科学基礎 III	院	1.50	0.05	
		遺伝情報学特論	院	4.50	0.15	
		遺伝情報発現制御学特論 I	院	4.50	0.15	
		授業担当時間の合計			57.25	
		薬学科	助教	生物系実習 I	◎	24.00
遺伝情報学特論	院			1.50	0.05	
遺伝情報発現制御学特論 I	院			1.50	0.05	
授業担当時間の合計				27.00		
薬学科	教授	先端薬科学		0.75	0.03	
		薬理学 I		22.50	0.75	
		薬理学 III		0.00	0.00	
		臨床薬理学 I		6.00	0.20	
		生物統計学 I		0.00	0.00	
		生物統計学 II		0.00	0.00	
		基礎薬学演習		10.50	0.35	
		薬学演習 II		0.00	0.00	
		医療機能系実習	◎	32.00	1.07	
		創薬生命科学基礎 III	院	1.50	0.05	
		化学物質と環境	院	1.50	0.05	
		先端機能薬理学特論 I	院	4.50	0.15	
		分子神経科学特論	院	4.50	0.15	
		授業担当時間の合計			83.75	
		薬学科	講師	薬理学 I		0.00
薬理学 III				10.50	0.35	
機能形態学 II				6.00	0.20	
臨床薬理学 I				3.00	0.10	
プレゼンテーション演習				3.50	0.12	
薬学演習 II				1.50	0.05	
医療機能系実習	◎			32.00	1.07	
先端機能薬理学特論 I	院			3.00	0.10	
分子神経科学特論	院			3.00	0.10	
創薬生命科学基礎 III	院			1.50	0.05	
授業担当時間の合計				64.00		
薬学科	教授	薬学概論 II		1.50	0.05	
		先端薬科学		0.75	0.25	
		機能形態学 II		4.50	0.15	
		基礎生物化学		22.50	0.75	
		病態生物化学		0.00	0.00	
		分子神経科学		7.50	0.25	
		生物系実習 IV	◎	12.00	0.40	
		医薬品産業特論	院	3.00	0.10	
		創薬生命科学基礎 III	院	3.00	0.10	
		病態生物化学特論	院	6.00	0.20	
授業担当時間の合計			58.50			

薬学科	准教授	薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		生物薬品化学Ⅱ		6.00	0.20
		病態生化学		10.50	0.35
		分子神経科学		3.00	0.10
		生物系実習Ⅳ	◎	12.00	0.40
		病態生化学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		36.00	
薬学科	教授	薬学概論Ⅱ		1.50	0.05
		先端薬科学		0.75	0.03
		薬剤学Ⅰ		22.50	0.75
		薬剤学Ⅱ		22.50	0.75
		医療機能系実習Ⅲ	◎	30.00	1.00
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	3.00	0.10
		薬物動態制御学特論	院	9.00	0.30
		薬物動態・超分子解析学特論Ⅰ	院	0.00	0.00
		化学物質と環境	院	1.50	0.05
		創薬生命科学基礎Ⅳ	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		92.25	
		薬学科	講師	放射薬品学	
薬学英語Ⅲ				6.00	0.20
臨床薬学Ⅵ				6.00	0.20
医療機能系実習Ⅲ	◎			30.00	1.00
臨床薬学実務実習Ⅰ	◎			3.00	0.10
薬物動態制御学特論	院			1.50	0.05
薬物動態・超分子解析学特論Ⅰ	院			0.00	0.00
授業担当時間の合計				51.00	
薬学科	助教	ドラッグデリバリー論		3.00	0.10
		薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		医療機能系実習Ⅲ	◎	30.00	1.00
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	3.00	0.10
		薬物動態制御学特論	院	0.00	0.00
		薬物動態・超分子解析学特論Ⅰ	院	0.00	0.00
		授業担当時間の合計		37.50	
薬学科	教授	先端薬科学		0.75	0.03
		機能形態学Ⅱ		3.00	0.10
		臨床薬理学Ⅱ		6.00	0.20
		医療薬学Ⅰ		7.50	0.25
		臨床薬学Ⅲ		4.50	0.15
		臨床薬学Ⅳ		4.50	0.15
		基礎薬学演習		7.50	0.25
		薬学演習Ⅰ		0.00	0.00
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	6.00	0.20
		生命倫理特論	院	1.50	0.05
		創薬生命科学基礎Ⅳ	院	1.50	0.05
		病態解析学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		44.25			
薬学科	助教	機能形態学Ⅱ		3.00	0.10
		臨床薬理学Ⅱ		4.50	0.15
		臨床薬学Ⅲ		1.50	0.05
		臨床薬学Ⅳ		3.00	0.10
		基礎薬学演習		7.50	0.25
		薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		医薬看護連携地域参加型学習		45.00	1.50
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	6.00	0.20
		病態解析学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		75.00	

薬学科	助教	基礎薬学演習		7.50	0.25
		病態解析学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		9.00	
薬学科	教授	先端薬科学		0.75	0.03
		医薬品代謝学		12.00	0.40
		免疫学		3.00	0.10
		公衆衛生学 I		3.00	0.10
		医療薬学 I		15.00	0.50
		生物系実習 IV	◎	12.00	0.40
		創薬生命科学基礎IV	院	1.50	0.05
		ストレス応答制御学	院	6.00	0.20
		次世代医薬品開発学1	院	6.00	0.20
		次世代医薬品開発学2	院	10.50	0.35
		機能医薬創成学概論1	院	10.50	0.35
		創薬生命科学特別講義III	院	10.50	0.35
		薬工融合特論	院	10.50	0.35
		授業担当時間の合計		101.25	
		薬学科	准教授	医薬品代謝学	
放射薬品学				1.50	0.05
免疫学				1.50	0.05
公衆衛生学 I				1.50	0.05
医療薬学 I				3.00	0.10
生物系実習 IV	◎			12.00	0.40
ストレス応答制御学	院			3.00	0.10
次世代医薬品開発学1	院			3.00	0.10
授業担当時間の合計				31.50	
薬学科	講師	薬学演習 I		1.50	0.05
		生物系実習 IV	◎	12.00	0.40
		ストレス応答制御学	院	1.50	0.05
		次世代医薬品開発学1	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		16.50	
薬学科	教授	薬学概論 I		1.50	0.05
		先端薬科学		0.75	0.03
		機能形態学 I		4.50	0.15
		薬理学 II		22.50	0.75
		薬理学IV		9.00	0.30
		生物統計学 I		0.00	0.00
		生物統計学 II		0.00	0.00
		臨床薬学III		1.50	0.05
		基礎薬学演習		0.00	0.00
		医療機能系実習	◎	24.00	0.80
		創薬生命科学基礎IV	院	1.50	0.05
		神経薬理学特論	院	4.50	0.15
		先端機能薬理学特論2	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		74.25	
		薬学科	准教授	薬理学 II	
薬理学IV				1.50	0.05
臨床薬学III				6.00	0.20
薬学演習 I				1.50	0.05
医療機能系実習	◎			24.00	0.80
コミュニティファーマシー基礎				1.50	0.05
神経薬理学特論	院			4.50	0.15
先端機能薬理学特論2	院			4.50	0.15
授業担当時間の合計				42.00	

薬学科	講師	薬理学Ⅱ		0.00	0.00
		薬理学Ⅳ		0.00	0.00
		プレゼンテーション演習		3.00	0.10
		医療機能系実習	◎	24.00	0.80
		神経薬理学特論	院	1.50	0.05
		先端機能薬理学特論2	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		30.00	
薬学科	教授	薬学概論Ⅰ		1.50	0.05
		先端薬科学		0.75	0.03
		生物統計学Ⅰ		10.50	0.35
		生物統計学Ⅱ		7.50	0.25
		公衆衛生学Ⅰ		1.50	0.05
		プレゼンテーション演習		4.50	0.15
		医療機能系実習	◎	3.00	0.10
		創薬生命科学基礎Ⅳ	院	1.50	0.05
		医薬品産業特論	院	1.50	0.05
		化学物質と環境	院	1.60	0.05
		レギュラトリーサイエンス特論	院	7.50	0.25
		医薬品安全性評価学特論	院	7.50	0.25
		授業担当時間の合計		48.75	
		薬学科	講師	生物統計学Ⅰ	
生物統計学Ⅱ				4.50	0.08
医療機能系実習	◎			3.00	0.10
レギュラトリーサイエンス特論	院			1.50	0.05
医薬品安全性評価学特論	院			1.50	0.05
授業担当時間の合計		13.50			
薬学科	助教	医療機能系実習	◎	3.00	0.10
		レギュラトリーサイエンス特論	院	1.50	0.05
		医薬品安全性評価学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		6.00			
薬学科	講師	先端薬科学		0.50	0.02
		機能形態学Ⅱ		3.00	0.10
		臨床薬学Ⅲ		1.50	0.05
		薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		臨床薬学実務実習Ⅰ		4.50	0.15
		基礎薬学演習		1.50	0.05
		病院臨床薬剤学特論	院	3.00	0.10
		病院薬剤学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		18.50	
薬学科	教授	薬学概論Ⅱ		4.50	0.15
		先端薬科学		1.50	0.05
		医療経済学		6.00	0.20
		薬事関連法・制度Ⅰ		0.00	0.00
		薬事関連法・制度Ⅱ		3.00	0.10
		薬局管理学		10.50	0.35
		薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	90.00	3.00
		臨床薬学実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
		臨床薬学実務実習Ⅲ	◎	30.00	1.00
		コミュニティファーマシー基礎		18.00	0.60
		コミュニティファーマシー応用		22.50	0.75
		コミュニティファーマシー発展		22.50	0.75
		コミュニティファーマシー実践		22.50	0.75
		コミュニティファーマシー特論	院	7.50	0.25
		臨床薬学特論	院	7.50	0.25
		授業担当時間の合計		262.50	

薬学科	教授	薬学概論 I		1.50	0.05	
		先端薬科学		0.75	0.03	
		医薬品情報学		10.50	0.35	
		臨床薬学Ⅳ		4.50	0.15	
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	64.50	2.15	
		臨床薬学実務実習Ⅱ	◎	30.00	1.00	
		臨床薬学実務実習Ⅲ	◎	15.00	0.50	
		創薬生命科学基礎Ⅳ	院	1.50	0.05	
		生命倫理特論	院	3.00	0.10	
		個人差・オーダーメイド医療薬学特論	院	4.50	0.15	
		臨床薬学特論	院	4.50	0.15	
		授業担当時間の合計			140.25	
		薬学科	准教授	臨床薬学Ⅵ		16.50
基礎薬学演習				10.50	0.35	
臨床薬学実務実習Ⅰ	◎			90.00	3.00	
臨床薬学実務実習Ⅱ	◎			30.00	1.00	
臨床薬学実務実習Ⅲ	◎			0.00	0.00	
個人差・オーダーメイド医療薬学特論	院			3.00	0.10	
臨床薬学特論	院			3.00	0.10	
授業担当時間の合計				153.00		
薬学科	講師			臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	90.00
		臨床薬学実務実習Ⅱ	◎	36.00	1.20	
		臨床薬学実務実習Ⅲ	◎	0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー基礎		8.00	0.27	
		コミュニティファーマシー応用		0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー発展		1.50	0.05	
		コミュニティファーマシー実践		0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー特論	院	1.50	0.05	
		個人差・オーダーメイド医療薬学特論	院	3.00	0.10	
		臨床薬学特論	院	3.00	0.10	
授業担当時間の合計			143.00			
薬学科	講師	医療経済学		0.00	0.00	
		臨床薬学Ⅲ		1.50	0.05	
		基礎薬学演習		10.50	0.35	
		臨床薬学実務実習Ⅰ	◎	90.00	3.00	
		臨床薬学実務実習Ⅱ	◎	82.50	2.75	
		臨床薬学実務実習Ⅲ	◎	0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー基礎		3.00	0.10	
		コミュニティファーマシー応用		0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー発展		1.50	0.05	
		コミュニティファーマシー実践		0.00	0.00	
		コミュニティファーマシー特論	院	1.50	0.05	
		臨床薬学特論	院	0.00	0.00	
		授業担当時間の合計			190.50	

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、基礎資料7(専任教員の教育担当状況 例示)に従って記入してください)

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学部の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、
大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 6) 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたしません。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬学科	助手								
薬学科	助手	該当者なし							

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き 例示))に従って記入してください)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
生命薬科学科	准教授						薬学概論 I	1.50	0.05	
							先端薬科学	0.75	0.03	
							薬学無機化学	6.00	0.20	
							有機反応化学 II	22.50	0.75	
							生物有機化学	10.50	0.35	
							ケミカルバイオロジー	6.00	0.20	
							薬学演習 I	1.50	0.05	
							化学系実習 I	◎	9.00	0.30
							化学系実習 II	◎	12.00	0.40
							化学系実習 III	◎	36.00	1.20
							創薬生命科学基礎 I	院	1.50	0.05
							センサーデバイス開発学	院	1.50	0.05
							精密有機反応学特論	院	6.00	0.20
生命薬科学科	講師						薬学無機化学	4.50	0.15	
							有機反応化学 II	0.00	0.00	
							生物有機化学	0.00	0.00	
							ケミカルバイオロジー	4.50	0.15	
							有機化学演習	1.50	0.05	
							化学系実習 I	◎	6.00	0.20
							化学系実習 II	◎	15.00	0.50
							化学系実習 III	◎	36.00	1.20
							創薬生命科学基礎 I	院	1.50	0.05
							精密有機反応学特論	院	6.00	0.20
生命薬科学科	教授						先端薬科学	1.50	0.05	
							薬学物理化学 I	12.00	0.40	
							薬学物理化学 III	10.50	0.35	
							薬学英語 IV	1.50	0.05	
							コロイド・高分子科学	10.50	0.35	
							薬学情報処理演習	0.00	0.00	
							物理系実習 I	◎	54.00	1.80
							医薬品産業特論	院	1.50	0.05
							化学物質と環境	院	1.50	0.05
							コロイド・高分子物性学特論	院	4.50	0.15
							医薬支援ソフトマター物性論1	院	4.50	0.15
							医薬支援ソフトマター物性論2	院	10.50	0.35
							医薬支援ナノ工学概論1	院	10.50	0.35

生命薬科学科	准教授	薬学物理化学Ⅰ		10.50	0.35
		薬学物理化学Ⅲ		12.00	0.40
		薬学英語Ⅳ		1.50	0.05
		コロイド・高分子科学		0.00	0.00
		バイオインフォマティクス		1.50	0.05
		薬学情報処理演習		10.50	0.35
		物理系実習Ⅰ	◎	24.00	0.80
		創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	1.50	0.05
		コロイド・高分子物性学特論	院	4.50	0.15
		医薬支援ソフトマター物性論1	院	4.50	0.15
生命薬科学科	准教授	薬学英語Ⅳ		1.50	0.05
		コロイド・高分子科学		0.00	0.00
		物理系実習Ⅰ	◎	24.00	0.80
		創薬生命科学基礎Ⅱ	院	1.50	0.05
		コロイド・高分子物性学特論	院	3.00	0.10
		医薬支援ソフトマター物性論1	院	3.00	0.10
生命薬科学科	准教授	薬学物理化学Ⅱ		15.00	0.50
		構造生物学		6.00	0.20
		バイオインフォマティクス		1.50	0.05
		創薬科学・知的財産活用論		3.00	0.10
		薬学演習Ⅰ			
		物理系実習Ⅱ	◎	54.00	1.80
		創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	1.50	0.05
		生命分子構造学	院	3.00	0.10
生命薬科学科	講師	薬学物理化学Ⅱ			
		構造生物学		6.00	0.20
		物理系実習Ⅱ	◎	54.00	1.80
		生命分子構造学	院	3.00	0.10
生命薬科学科	教授	先端薬科学		1.50	0.05
		微生物薬品学		10.50	0.35
		細胞生物学		4.50	0.15
		臨床薬学Ⅳ		0.00	0.00
		生物系実習Ⅲ	◎	24.00	0.80
		創薬生命科学特別講義Ⅰ	院	1.50	0.05
		創薬生命科学基礎Ⅱ	院	1.50	0.05
		分子生物薬学特論	院	4.50	0.15
		遺伝情報発現制御学特論2	院	4.50	0.15
生命薬科学科	講師	微生物薬品学		6.00	0.20
		細胞生物学		3.00	0.10
		薬学演習Ⅰ		1.50	0.05
		生物系実習Ⅲ	◎	24.00	0.80
		分子生物薬学特論	院	3.00	0.10
		遺伝情報発現制御学特論2	院	3.00	0.10
		創薬生命科学基礎Ⅱ	院	1.50	0.05

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	58名
5年生の在籍学生数	58名
6年生の在籍学生数	62名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	薬化学	3	1	1	2	4	317.6
2	精密有機反応学	2	0	0	2	2	257.1
3	薬品合成化学	2	1	1	1	3	287.3
4	機能分子構造学	1	0	0	0	0	60.6
5	生体超分子システム解析学	3	3	4	5	12	317.6
6	コロイド・高分子物性学	3	4	4	3	11	317.6
7	生命分子構造学	3	1	1	1	3	317.6
8	分子生物薬学	3	4	1	2	7	317.6
9	薬物送達学	3	4	4	4	12	200.9
10	生薬学	3	3	4	3	10	317.6
11	衛生化学	2	4	4	3	11	257.1
12	遺伝情報学	2	1	2	3	6	317.6
13	細胞分子薬効解析学	2	4	2	4	10	317.6
14	病態生化学	2	4	4	4	12	317.6
15	薬物動態制御学	3	4	4	3	11	317.6
16	病態解析学	3	3	3	3	9	317.6
17	細胞情報学	3	3	3	3	9	317.6
18	神経薬理学	3	4	2	2	8	317.6
19	医薬品安全性評価学	3	3	4	2	9	317.6
20	病院薬剤学	2	2	3	2	7	189.1
21	臨床薬学教育研究センター	5	6	6	6	18	317.6
22	(医) 病態モデル医学	2	1	0	0	1	307.8
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
	合計	58	60	57	58	175	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬化学
職名	教授	氏名	中川秀彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 教科書に基づいた配布資料		2018年4月～	各回習熟度確認用自習問題、発展内容の学習指針 および各回授業項目とコアカリ項目との対応表配布 Webカメラ併用でスライド・手書き説明同時表示
オンライン講義時の手書き説明画像同時挿入		2020年4月～	
2 作成した教科書、教材、参考書 ベーシック薬学教科書シリーズ 創薬科学・医薬科学 (第2版) (株式会社化学同人)		2022年3月	第7章を執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 高校訪問授業		2019年6月14日	愛知県立明和高校の依頼で薬学出張講義
高校訪問授業		2022年11月7日	愛知県立瑞陵高校の依頼で薬学出張講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
A small-molecule inhibitor of SOD1-Derlin-1 interaction ameliorates pathology in an ALS mouse model,	共著	2018年7月	Nature Communications, 9, 2668(2018)
Structure-efficiency relationship of photoinduced electron transfer-triggered nitric oxide releasers	共著	2019年2月	Scientific Reports, 9, 1430 (2019)
Multiplexed single-molecule enzyme activity analysis for counting disease-related proteins in biological samples,	共著	2020年3月	Science Advances, 6, eaay0888 (2020)
Synthesis of fluorescence probes targeting tumor-suppressor protein FHIT and identification of apoptosis-inducing FHIT inhibitors	共著	2021年6月	J. Med. Chem., 64, 9567-9576 (2021)
Ascorbate-assisted nitric oxide release from photocontrollable nitrosonium ion releasers for potent ex vivo photovasodilation	共著	2022年7月	Chem. Commun., 58, 8420-8423 (2022).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高効率な可視光応答性NOドナーの開発とその応用		2022年5月	日本ケミカルバイオロジー学会
Visible light-controllable caged nitric oxide based on PeT mechanism and its biological applications.		2022年11月	Society for Free Radical Research Asia 2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	日本薬学会学術誌Chemical and Pharmaceutica Bulletin 編集長		
2019年6月	日本ケミカルバイオロジー学会第14回学術集会実行委員長		
2012年4月～現在	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA) 専門委員		
2017年10月～現在	An expert of International Non-proprietary Name for Pharmaceutical Substances in WHO		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬化学
職名	講師	氏名	家田直弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年5-7月 毎年9, 11月	有機化学演習：学部3年生向けに化学反応機構の演習を行った。 化学系実習：学部2年生向けに化学実験の演習を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年10月27日 2020/6/24	研究授業：他教員の講義を聴講し、自らの講義と比較、参考にできる点を学んだ。 研究授業：他教員の講義を聴講し、自らの講義と比較、参考にできる点を学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
光制御可能なNOドナーの開発と難治性勃起不全への応用	共著	2022年2月	月刊「細胞」, 54, 147-150 (2022)
Control of rat bladder neck relaxation with NORD-1, a red light-reactive nitric oxide	共著	2021年8月	J. Pharm. Sci., 146, 226-232 (2021).
Development of a red-light-controllable nitric oxide releaser to control smooth muscle	共著	2020年11月	ACS Chem. Biol., 15, 2958-2965 (2020).
Structure-efficiency relationship of photoinduced electron transfer-triggered nitric	共著	2019年2月	Sci. Rep., 9, 1430 (2019).
Development of Photoredox-reaction-driven NO-releasing Reagents and Application for	共著	2020年11月	J. Synth. Org. Chem. Jpn., 78, 1048-1057 (2020).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アスコルビン酸による光応答性NO ⁺ ドナーからの高効率一酸化窒素放出		2022年9月	2022年光化学討論会
光レドックス反応をトリガーにした可視光応答ケージド基の合成と光分解性の評価		2022年5月	日本ケミカルバイオロジー学会第16回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬化学
職名	講師	氏名	川口 充康
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	なし	
2	作成した教科書、教材、参考書	なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Synthesis of Fluorescent Probes Targeting Tumor-Suppressor Protein FHIT and</i>	共著	2021年7月	<i>J Med Chem</i> 64, 9567-9576
(論文) <i>A Set of Highly Sensitive Sirtuin Fluorescence Probes for Screening Small-</i>	共著	2021年3月	<i>ACS Med Chem Lett</i> 12, 617-624
(論文) <i>Multiplexed single-molecule enzyme activity analysis for counting disease-related</i>	共著	2020年3月	<i>Sci Adv</i> 6, eaay0888
(論文) <i>Identification of Potent In Vivo Autotaxin Inhibitors that Bind to Both</i>	共著	2020年3月	<i>J Med Chem</i> 63, 3188-3204
(論文) <i>Development of an ENPP1 Fluorescence Probe for Inhibitor Screening, Cellular</i>	共著	2019年9月	<i>J Med Chem</i> 62, 9254-9269
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ジニトロベンゼン骨格を持つ Cys-SSH 検出蛍光プローブの開発と細胞イメージング		2021年7月	生理研研究会「生命を支える硫黄生物学の最前線」
(演題名) 光作動性ガス状分子供与剤の開発とENPPを標的とした創薬研究		2020年7月	第2回医薬品開発研究センターシンポジウム「酸化ストレスと創薬」
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月~2023年3月	日本薬学会ファルマンアトピックス小委員		
2022年9月	第9回バイオ関連化学シンポジウム若手フォーラム世話人		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬品合成化学
		職名	教授
		氏名	中村 精一
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2017-2022	有機反応化学 I・III を15回ずつ担当。2019年度までは板書で行っていたが、2020年度よりオンライン講義に対応できるよう変更。学生の理解度を高めるため、講義動画を自由に視聴できるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書 薬学実習（物理系実習・化学系実習） 有機反応化学 I・III の講義資料	2017-2021 2020	化学系実習 II の実習内容を記載 オンライン講義対応用
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 高校で模擬授業を担当 名古屋市立高校生向け研究室体験を実施	2017-2021 2019, 2021	7高校で計13回、薬学を解説する講義を行った。 研究室で高校生に実験指導を行った。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）
			発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
	(論文) Second-Generation Synthesis of a Chiral Building Block for Oxygenated Terpenoids via a Ring-Contractive Coupling with a Secondary Alcohol	共著	2019年1月
	(論文) 新規キラル合成ブロックの創製を基盤とする生物活性テルペノイドの合成研究	共著	2020年3月
	(論文) Total Syntheses of Marrubiin and Related Labdane Diterpene Lactones	共著	2020年4月
	(論文) Stereoselective 1,4-Addition of Primary Alcohols to γ -Alkoxy- α,β -unsaturated Esters	共著	2021年1月
	(論文) Stereoselective Synthesis of the DE Ring Portion of Kadococilactone A by a Radical Addition/Cyclization Approach	共著	2022年12月
2.	学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月
			学会名
	三成分連結法/6-endo環化によるトランス縮環二環式骨格構築法の開発		2022年11月
	スピロリドDの合成研究 -1,3-双極付加環化反応を用いる立体選択的なE環の構築-		2023年3月
			第48回反応と合成の進歩シンポジウム 日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年2月～2021年1月	日本薬学会代議員		
2019年4月～現在	天然有機化合物討論会世話人		
2020年4月～現在	日本薬学会化学系薬学部会役員（学術・教育）		
2021年4月～現在	日本化学会代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	機能分子構造学
職名	准教授	氏名	池田 慎一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～	「薬学有機化学I」では教科書に基づいたト パワーポイントを作成。講義毎回のまとめ として学習のポイントをポータルにアップし 学生の理解を高めるよう努力している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	有機合成化学協会東海支部幹事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生体超分子システム解析学
職名	教授	氏名	平嶋 尚英
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	令和元年4月～	物理を背景とする科目において、高校での物理未修者にもわかるように、高校レベルの物理から説く。また、前年度の期末試験問題を第1回目の講義で提示し、講義の終わりにはこのような問題が解けるようになることを示して、学習意欲を向上させる。
2	作成した教科書、教材、参考書	令和4年4月～	教科書 薬学生の物理化学 培風館(編集・共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	令和2年11月 令和4年4月	教育改革フォーラム「教学マネジメントを支える教学IR」に参加 高校での出前授業(四日市高校)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Monomer hapten and hapten-specific IgG inhibit mast cell activation evoked by multivalent hapten with different mechanisms.	共著	2019年12月	Eur. J. Immunol. Vol. 49, No. 12
(論文) Receptor dynamics regulates actin polymerization state through phosphorylation of cofilin in mast cells.	共著	2021年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol. 534, 714-719
(論文) Promotion of Dendritic Differentiation of Cerebellar Purkinje Cells by Ca ²⁺ /calmodulin-dependent Protein Kinase II α , II β and IV and	共著	2021年5月	Neuroscience Vol. 458, 87-98
(論文) Surface Plasmon Resonance of Two-Dimensional Gold Colloidal Crystals Formed on Gold Plates.	共著	2022年2月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 70, No. 2
(論文) A Simple Method for Purified Primary Culture of Enteric Glial Cells from Mouse Small Intestine	共著	2022年5月	Biol. Pharm. Bull. Vol. 45, No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) IgE受容体の架橋状態の変化によるマスト細胞のアクチンダイナミクス制御シグナル機構		2022年12月	第45回日本分子生物学会
(演題名) 正電荷リポソームを用いた遺伝子導入によるマスト細胞の活性化抑制		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～2022年3月	薬剤師国家試験 試験委員		
2021年4月～現在	JST創発的研究支援事業 審査委員		
2012/4/1～現在	静岡県大「教員特別研究推進費」に係る外部審査委員		
2014/4/1～現在	日本健康促進医学会 理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生体超分子システム解析学
職名	准教授	氏名	田中 正彦
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年度 毎年度	「薬品分析化学」における授業内容のまとめ及び演習問題(解説を含む)を記したプリントの配布による理解・習熟度向上の取り組み 「機器分析化学」における顕微鏡画像のスライド映写による理解度向上の取り組み
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	毎年度	研究授業参加
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) <i>Calcineurin B1</i> deficiency in glial cells induces mucosal degeneration and inflammation in mouse small intestine	共著	2018年5月 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 41 No. 5
	(論文) Development of 3D imaging technique of reconstructed human epidermis with immortalized human epidermal cell line	共著	2018年5月 Experimental Dermatology vol. 27 No. 5
	(論文) <i>Calcineurin B1</i> deficiency in glial cells reduces gastrointestinal motility and results in maldigestion and/or malabsorption in mice	共著	2019年7月 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 42 No. 7
	(論文) Promotion of dendritic differentiation of cerebellar Purkinje cells by Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase II α , II β and IV and possible involvement of CREB phosphorylation	共著	2021年3月 Neuroscience vol. 458
	(論文) A simple method for purified primary culture of enteric glial cells from mouse small intestine	共著	2022年4月 Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 45 No. 4
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月 学会名
	(演題名) Calcineurin欠損腸管グリア細胞における増殖能低下と分泌物質量変化:小腸の機能異常及び炎症との関連		2022年7月 第45回日本神経科学大会・第65回日本神経化学学会大会・第32回日本神経回路学会大会合同大会(NEURO2022)
	(演題名) GFAP-Cre calcineurin B α fl/fl miceにおける睪星細胞および睪臓の異常		2022年12月 第45回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2003年10月～現在	日本神経化学学会評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生体超分子システム解析学
		職名	助教
		氏名	鈴木 瑠理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Monomer hapten and hapten-specific IgG inhibit mast cell activation evoked by multivalent hapten with different mechanisms.	共著	2019年12月	<i>Eur. J. Immunol.</i> , 49, 2172-2183
(論文) Receptor dynamics regulates actin polymerization state through phosphorylation of cofilin in mast cells.	共著	2021年1月	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 534, 714-719
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マスト細胞におけるアクチン重合・脱重合制御シグナル機構の研究		2022・7	第68回日本薬学会東海支部大会
IgE受容体の架橋状態の変化によるマスト細胞のアクチンダイナミクス制御シグナル機構		2022・11	第45回日本分子生物学会年会
マスト細胞のFc受容体の架橋状態の変化によるアクチン脱重合シグナル調節機構		2023・3	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
		日本薬学会会員	
		日本分子生物学会会員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生薬学
		職名	教授
		氏名	牧野 利明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年8月 2020年8月	生薬学1・総合評価4.28(平均3.91) 臨床薬学V・総合評価4.23(平均3.91)
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年12月25日 2017年12月15日 2022年11月9日	新訂生薬学改訂第9版 新訂生薬学改訂第8版 漢方医学大全
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Prolonging effects of <i>Valeriana fauriei</i> root extract on pentobarbital-induced sleep in caffeine-induced insomnia model mice and the pharmacokinetics of its active ingredients under conditions of glycerol	共著	2022年10月	J. Ethnopharmacol. 298:115625, 2022
(論文) Suppressive effects of processed aconite root on dexamethasone-induced muscle ring finger protein-1 expression and its active ingredients	共著	2022年7月	J. Nat. Med. 76(3): 594-604, 2022
(論文) Historical study for the differences of processing of <i>Pinellia ternata</i> tuber between China and Japan	共著	2022年6月	Frontiers Pharmacol. 13:892732, 2022
(論文) Oxalic acid in ginger specifically denatures the acrid raphides in the unprocessed dried tuber of <i>Pinellia ternata</i>	共著	2022年6月	Acupunct. Herb. Med. 2(1): 33-40, 2022
(論文) Effect of steam-processing of the <i>Panax ginseng</i> root on its inducible activity on granulocyte-colony stimulating factor secretion in intestinal epithelial cells in vitro	共著	2022年1月	J. Ethnopharmacol. 287, 114927, 2022
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Pharmacological aspect of Kampo medicine in the prevention for COVID-19		2022年8月	First international symposium for Kampo Medicine by The Japan Society for Oriental Medicine
国内での薬用作物栽培の持続可能性と今後の展望		2022年5月	第72回日本東洋医学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年4月～現在		和漢医薬学会代議員	
2014年11月～現在		国際東洋医学会理事・副事務局長、日本支部理事・日本支部事務局長	
2014年4月～現在		日本東洋医学会代議員・各種委員会委員	
2022年4月～現在		日本生薬学会財務理事	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生薬学
職名	准教授	氏名	石内 勘一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年4月～	「生薬学II」「薬用資源学特論」では、教科書に基づいたパワーポイントを用いて講義を行い、理解を助けるために講義資料を作成している。講義の終わりに小テストを行い、学生の理解度を高めるように工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成29年9月	化学実習IV実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Identification of an Alternative Glycyrrhizin Metabolite Causing Licorice-Induced Pseudohyperaldosteronism and the Development of ELISA System to Detect the Predictive Biomarker</i>	共著	2021年5月	Frontiers, Frontiers in Pharmacology (12・688508)
<i>Decaturenol A and known oxalic acid related meroterpenoids isolated from Penicillium decaturense R0050, and their new biological activities</i>	共著	2020年8月	Elsevier, Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters (30・16・127307)
<i>Mariannamides A and B, new cyclic octapeptides isolated from Mariannaea elegans NBRC102301</i>	共著	2020年2月	Elsevier, Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters (30・4・126946)
<i>18β-glycyrrhetyl-3-O-sulfate would be a causative agent of licorice-induced pseudoaldosteronism</i>	共著	2019年12月	Nature, Scientific Reports (9・1・1587)
<i>Identification of Lycopodium Alkaloids Produced by an Ultraviolet-Irradiated Strain of Paraboeremia, an Endophytic Fungus from Lycopodium serratum var. longipetiolatum</i>	共著	2018年5月	ACS, Journal of Natural Products (81・5・1143-1147)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒカゲノカズラ科植物由来内生糸状菌 <i>Penicillium citreosulfuratum</i> LY111より単離した新規化合物の構造		2022年・3月	日本薬学会第142回年会
ペリプロシンおよび強心配糖体は小胞体ストレス応答を抑制する		2022年・3月	日本薬学会第142回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	名古屋市立大学薬用植物園市民公開講座		
2022年4月～現在	日本薬学会東海支部会計幹事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生薬学
職名	講師	氏名	寺坂 和祥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～2021年	「生薬学Ⅱ」では、パワーポイントを用いて講義を行い、理解を助けるため、講義に先立ってスライドのハンドアウトを配付した。また、講義の最後には小テストを行い、翌週に解説を行うことで、学生の理解度の向上に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Characterization of triterpene saponin glycyrrhizin transport by <i>Glycyrrhiza glabra</i>	共著	2022年5月	Plants, vol.11, 1250
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ウマノズクサのアリストロキア酸生合成に関わるO-methyltransferaseの探索と機能解析		2022年9月	日本生薬学会第68回年会
(演題名) <i>Rheum rhabarbarum</i> のフラボノイド・スチルベン配糖化酵素の機能解析		2022年9月	第39回日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会
(演題名) モミジバダイオウのアントラキノン配糖化酵素の単離と機能解析		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	衛生化学
職名	教授	氏名	肥田 重明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫	衛生化学 環境衛生学 免疫学 公衆衛生学	毎年 毎年 毎年 毎年	毎講義で国試に基づいた小テストと解説 毎講義で国試に基づいた小テストと解説 毎講義で国試に基づいた小テストと解説 行政・学校薬剤師など外部講師による講義
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月30日	コンパス衛生薬学 健康と環境 (改訂第3版)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
IL-3-dependent potentiation of IgE responsiveness in mouse basophils	共著	<i>in press</i>	Genes Cells
Staphylococcal γ -hemolysins induce IL-4 production in murine basophils	共著	2022年12月	Biochem Biophys Res Commun(632)
Identification of responsible amino acid residues in staphylococcal superantigen-like 12 for the activation of mast cells	共著	2022年・9月	Genes Cells(27・9)
Anti-inflammatory activity of kurarinone involves induction of ho-1 via the keap1/nrf2 pathway	共著	2020年・9月	Antioxidants(9・9)
Fascin1 suppresses RIG-I-like receptor signaling and interferon- production by associating with IB kinase (IKK) in colon cancer	共著	2018年・4月	Journal of Biological Chemistry(293・17)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) T細胞依存的な皮膚の慢性炎症性疾患の解析		2022年・11月	日本薬学会・日本病院薬剤師会
(演題名) Molecular regulation of type-2 immune responses		2019年・10月	大韓薬学会国際学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年5月～現在	(独) 中小企業基盤整備機構 安全衛生委員(年3～5回)		
2016年4月～2018年3月	文科省科学技術専門家ネットワーク・専門調査員(年2回)		
2016年4月～2019年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, associate editor(年4回)		
2018年4月～現在	BPB report, associate editor(年1～3回)		
2019年4月～2022年3月	東北大学 加齢医学研究所 外部評価委員(年1回)		
2017年4月～2022年10月	愛知学院大学研究活動不正行為に関する調査委員会(年2～5回)		
2010年10月～現在	日本免疫学会 評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	衛生化学
職名	准教授	氏名	伊藤 佐生智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年4月～	「衛生化学・環境衛生学・免疫学・公衆衛生学」講義終了時に○×形式の確認テストを行い、学生が理解度を確認できるようにした。 「薬学演習Ⅰ・Ⅱ」CBT, 国家試験に準じた問題のスライド(1問1スライド)を作成し、制限時間を設け解答し、その後解説を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		衛生化学・環境衛生学・免疫学・公衆衛生学」講義スライド、確認テスト
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Identification of responsible amino acid residues in Staphylococcal superantigen-like 12 for the activation of mast cells.</i>	共著	2022年7月	<i>Genes to Cells</i>
<i>Interleukin-3 potentiates murine basophils for protease allergen-induced interleukin-4 production.</i>	共著	2022年4月	<i>BPB Reports</i>
<i>Staphylococcal superantigen-like 12 induces the production of interleukin 4 in murine basophils.</i>	共著	2020年11月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> 532(2)
<i>Staphylococcal superantigen-like 12 activates murine bone marrow derived mast cells.</i>	共著	2019年4月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> 511(2)
<i>Staphylococcal α-hemolysin does not induce cell damage in murine mast cells but it augments the degranulation induced by FcεRI cross-linking and ionomycin.</i>	共著	2019年1月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> 508(1)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Type2 免疫反応におけるCD36の役割		2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学
ビフィズス菌への自然免疫応答の解析と治療応用		2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学
ビフィズス菌を用いた新規DDSの構築と安全性に関する研究		2022年8月	第34回微生物シンポジウム
樹状細胞分化における転写因子 IRF ファミリーの役割		2022年7月	68回 日本薬学会東海支部総会・大会
樹状細胞分化と免疫機能における転写因子IRF2の役割		2022年3月	日本薬学会第142年会
HMG-CoA還元酵素阻害薬が有する免疫制御特性の検討		2022年3月	日本薬学会第142年会
黄色ブドウ球菌スーパー抗原様毒素SSL12によるマスト細胞および好塩基球の活性化作用		2022年3月	第95回 日本細菌学会総会
T細胞依存的な好塩基球のIgE刺激応答性亢進の分子メカニズム		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	四日市高校SSH事業『探究Ⅱs』研究指導 高校二年生2名		
2022年3月	日本薬学会第142年会プログラム編成査読者		
2019-2020年	日本薬学会代議員		
2019年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2019		
2018年-2019年	日本薬学会東海支部幹事		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	遺伝情報学
職名	教授	氏名	星野 真一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月～	「生物薬品化学I」「生物薬品化学II」「臨床薬学III」「創薬と生命」「機能形態学I」「先端薬科学」の講義において、理解度を高める工夫をこらした講義資料を作成し、演習問題を学生に解かせて学習効率を上げる努力をしている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年4月	生物系実習I実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		四日市高校や一宮高校など近隣の高校に訪問して出前講義を実施した。またチューター会を定期的に関ぎ、研究室配属されていない学生とのコミュニケーションをはかる努力をした。また1年生、2年生の学生を対象に、早期に研究室での実験を体験させ、研究指導をした。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 星野真一: mRNAの分解機構に基づいたmRNA医薬品の安定化	単著	2022年11月	東京化学同人、「現代化学」特集号 mRNA医薬品(印刷中)
(論文) mTOR- and LARPI-dependent regulation of TOP mRNA poly(A) tail and ribosome loading.	共著	2020年9月	Cell Reports 41
(論文) Direct evidence that Ataxin-2 is a translational activator mediating cytoplasmic	共著	2020年9月	J Biol Chem 295
(論文) ABCF1 acts as a positive regulator of	共著	2020年2月	viruses 20
(論文) Dom34 mediates targeting of exogenous	共著	2019年1月	Nucleic Acids Research 47
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 人工mRNAの安定化技術と翻訳効率化技術の開発		2023年2月	令和4年度AMED 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業「B型肝炎ウイルスの排除を可能とするゲノム編集治療の実用化に向けた包括的な研究」研究班会議
(演題名) 「mRNA医薬の安定化技術と翻訳効率化技術」		2023年2月	アドバイザーボード2月セミナー
(演題名) 人工mRNA発現効率化技術の開発		2022年8月	令和4年度AMED 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業「B型肝炎ウイルスの排除を可能とするゲノム編集治療の実用化に向けた包括的な研究」研究班会議
(演題名) 「mRNA医薬の安定化技術と翻訳効率化技術の現状と課題」		2022年5月	第9回バイオインベストメントギルドセミナー
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年6月～2022年7月	RNA学会プログラム委員・大会審査委員		
2018年4月～2022年3月	Journal of Biochemistry associate editor		
2020年4月～2022年8月	科学技術振興機構 創発的研究支援事業 事前評価 外部専門家		
2019年4月～2020年12月	日本学術振興会 特別研究等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員、国際事業委員会書面審査員		
2019年4月～2020年3月	公益財団法人 山田科学振興財団研究助成 選考委員		
2018年4月～2019年3月	日本薬学会賞 選考委員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	遺伝情報学
		職名	助教
		氏名	稲垣佑都
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	令和4年～	生物系実習1では、各実験前及び後にパワーポイントを用いて解説を行い、実験に対して理解を助ける工夫をしている。
2	作成した教科書、教材、参考書	令和4年4月	生物系実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Direct evidence that Ataxin-2 is a translational activator mediating cytoplasmic polyadenylation	共著	2020年9月	J. Biol. Chem., 295, 15810-15825
(論文) DDX6 is a positive regulator of Ataxin-2/PAPD4 cytoplasmic polyadenylation machinery	共著	2021年3月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 553, 9-16
(論文) mTOR- and LARP1-dependent regulation of TOP mRNA poly(A) tail and ribosome loading.	共著	2022年10月	Cell reports, 41, 111548-111548
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) mRNA医薬翻訳効率化技術の開発		2022年8月	日本核酸医薬学会第7回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年6月～2023年3月	日本生化学会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞分子薬効解析学
職名	教授	氏名	山村 壽男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年度 2021年度 2022年度	教務FD副委員長(薬学科担当) 教務FD委員長 教務FD委員長
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Local Ca ²⁺ coupling between mitochondria and sarcoplasmic reticulum following depolarization in guinea pig urinary bladder smooth muscle cells.	共著	2018年1月	Am J Physiol Cell Physiol. 314(1):C88-C98.
(論文) TMEM16A and TMEM16B channel proteins generate Ca ²⁺ -activated Cl ⁻ current and regulate melatonin secretion in rat pineal glands.	共著	2018年1月	J Biol Chem. 293(3):995-1006.
(論文) 肺動脈性肺高血圧症におけるTRPC6 チャネルの病態生理学的役割	共著	2020年7月	日薬理誌. 155(4):230-235.
(論文) Downregulation of Ca ²⁺ -activated Cl ⁻ channel TMEM16A mediated by angiotensin II in cirrhotic portal hypertensive mice.	共著	2022年3月	Front Pharmacol. 13:831311.
(論文) A molecular complex of Cav1.2/CaMKK2/CaMK1a in caveolae is responsible for vascular remodeling via excitation-transcription coupling.	共著	2022年4月	Proc Natl Acad Sci USA. 119(16):e2117435119.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
血管の病気とくすり		2022年11月	名古屋市立大学×名古屋市科学館「サイエンスパートナーシップイベント」
肺高血圧症におけるイオンチャネル・受容体の発現機能変化と標的創薬		2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年7月～現在	American Journal of Physiology Cell Physiology Editorial Board		
2018年10月～現在	日本薬理学会代議員		
2020年4月～現在	J Pharmacological Sciences Associate Editor		
2022年4月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会常任世話人		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名	細胞分子薬効解析学分野	職名 講師 氏名 鈴木良明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			該当なし
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A molecular complex of Cav1.2/CaMKK2/CaMK1a in caveolae is	共著	2022年4月	Proc Natl Acad Sci USA. 119(16):e2117435119
(論文) Mitofusin 2 positively regulates Ca ²⁺ signaling by tethering the sarcoplasmic	共著	2022年4月	Am J Physiol Cell Physiol. 323(2):C295-
(論文) Local Ca ²⁺ signals within caveolae cause nuclear translocation of CaMK1 α in	共著	2022年7月	Biol Pharm Bull. 45(9):1354-1363
(論文) Roles of LRRC26 as an auxiliary γ 1-subunit of large-conductance Ca ²⁺ -activated K ⁺	共著	2020年10月	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol.
(論文) A junctophilin-caveolin interaction enables efficient coupling between ryanodine	共著	2019年6月	J Biol Chem. 294(35):13093-13105
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 血管平滑筋におけるカベオラを足場とした興奮-転写運関の役割の解明		2021年8月	第63回日本平滑筋学会総会
(演題名) CaMKK2/CaMK1経路を介した血管リモデリング形成		2021年8月	生体機能と創薬シンポジウム2021
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年 - 現在	日本薬理学会 次世代の会 運営委員		
2018年 - 現在	日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		
2017年4月 - 現在	日本薬理学会 学術評議員		
2017年4月 - 2019年3月	日本薬学会 ファルマシア トピックス小委員会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態生化学
		職名	教授
		氏名	服部光治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年～	・毎回、小テストを実施(基礎生物化学) ・全ての講義で穴埋め式プリントおよび補助プリント配布
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年 2022年	「カラー生化学」西村書店 翻訳の分担 「薬と生命を学ぶ人のための 基礎生化学」 化学同人 分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014-2016年 2018-2021年 2019年～ 2020年10月	薬学部教務委員長 全学教育機構会議委員 日本薬学会生化学分野教科担当教員会議委員 第30回日本医療薬学会年会 教育講演
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
Ogino et al., Secreted metalloproteinase ADAMTS-3 inactivates Reelin	共著	2017年2月	J. Neurosci. 37, 3181
Yamakage et al., ADAMTS-2 cleaves and inactivates Reelin in the postnatal cerebral cortex and hippocampus, but not in the cerebellum.	共著	2019年9月	Mol. Cell. Neurosci. 100, 103401
Okugawa et al., Physiological significance of proteolytic processing of Reelin revealed by cleavage-resistant Reelin knock-in mice.	共著	2020年3月	Sci. Rep. 10, 4471
The secreted glycoprotein Reelin suppresses the proliferation and regulates the distribution of oligodendrocyte progenitor cells in the embryonic neocortex.	共著	2020年9月	J. Neurosci. 40, 7625
Kohno, T., et al. Reelin-Nrpl interaction regulates neocortical dendrite development in a context-specific manner.	共著	2020年10月	J. Neurosci. 40, 8248
Ishii, K., et al., Reelin regulates the migration of late-born hippocampal CA1 neurons via cofilin phosphorylation	共著	in press.	Mol. Cell. Neurosci
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
川瀬宗之、梅村悠太、大嶋智葉、中島鼓美、大石久史、櫻井隆、服部光治 中枢神経系に高発現する酸性リン脂質フリッパーゼATP8A1とATP8A2の機能に関する研究		2022年5月21日	第86回日本生化学会中部支部例会
梅村悠太、大嶋智葉、中島鼓美、松田拓与、川瀬宗之、徳永柊、大石久史、築地仁美、河野孝夫、服部光治 脳におけるリン脂質フリッパーゼの機能解明		2022年7月1日	Neuro2022
竹腰祐斗、安藤飛悠吾、河野孝夫、有田誠、服部光治 分泌タンパク質リーリンの神経細胞の膜脂質組成に与える影響の解明		2022年7月1日	Neuro2022
徳永柊、梅村悠太、大嶋智葉、中島鼓美、大石久史、服部光治 リン脂質フリッパーゼATP8A1/ATP8A2二重欠損マウスにおけるグリア細胞活性化の分子機構		2022年7月9日	第68回日本薬学会東海支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～2021年3月	日本薬学会東海支部幹事		
2019～2020年	日本薬学会 代議員		
2022年～	日本生化学会 評議員		
2019年～	J. Biochem. Editorial Board		
2022年～2024年	日本薬学会生物系薬学部会・部会長		
2022年～2024年	Biol. Pharm. Bull. 部門E(生物系薬学) Editor-in-Chief		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態生化学
職名	准教授	氏名	河野 孝夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018-現在	講義内容をスクリーンに映し講義を行なった。その際、ペنツールで書き込みながら話し、重要な点を強調した。講義中に演習問題を解く時間を与え、次の回にその解説を行ない、講義内容の定着を促した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2018-現在	授業プリントを自作し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018-現在	教育改革フォーラムや研究授業に参加し、効果的な授業方法を学び、学生教育や講義内容の見直しを行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Microinjection of Reelin into the mPFC prevents MK-801-induced recognition memory impairment in mice	共著	2021年11月	Pharmacol Res., 173:105832.
(論文) Regulation of Reelin functions by specific proteolytic processing in the brain	共著	2021年7月	J. Biochem., 169, 511-516
(論文) Reelin-Nrp1 interaction regulates neocortical dendrite development in a context-	共著	2020年10月	J. Neurosci., 40, 8248-8261.
(論文) Physiological significance of proteolytic processing of Reelin revealed by cleavage-resistant Reelin knock-in mice	共著	2020年5月	Sci Rep., 2020 10, 4471.
(論文) A disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin motifs 2 cleaves and inactivates Reelin in the postnatal cerebral cortex and hippocampus, but not in the cerebellum	共著	2019年10月	Mol Cell Neurosci. 100, 103401.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 脳におけるリン脂質フリッパーゼの機能解明		2022年6月	第45回日本神経科学大会
(演題名) 分泌タンパク質リーリンの神経細胞の膜脂質組成に与える影響の解明		2022年6月	第45回日本神経科学大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年度	第21回 次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2022 副委員長		
2022年度	令和4年度名古屋市立大学市民公開講座での講演		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物動態制御学
職名	教授	氏名	湯浅 博昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫		薬理学I・II(主担当科目)での授業の工夫(継続的な見直しを含む) ・指定参考書に沿って内容を精選した授業資料の作成及び事前配布(PowerPointスライド形式) ・授業内容に沿った演習問題集の作成及び事前配布(PowerPointスライド形式) ・毎回の小演習による授業内容のまとめ ・演習問題解説による習熟度向上の取り組み
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2018年12月14日 2019~2020年度 2021~2022年度	平成30年度東海地区大学教育研究会研究大会(参加) 名古屋市立大学FD講演会(参加):年1回 名古屋市立大学薬学部研究授業(参加):年1回
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Urate transport function of rat sodium-dependent nucleobase transporter 1	共著	2018年5月	Physiol. Rep., Vol. 6, No. 10
(論文) Identification of the amino acid residue responsible for the myricetin sensitivity of human proton-coupled folate transporter	共著	2019年12月	Sci. Rep., Vol. 9
(論文) Current understanding of the intestinal absorption of nucleobases and analogs	共著	2020年9月	Biol. Pharm. Bull. Vol. 43, No. 9
(論文) pH-dependent pyridoxine transport by SLC19A2 and SLC19A3: implications for absorption in acidic microclimates	共著	2020年12月	J. Biol. Chem., Vol. 295, No. 50
(論文) Identification of the amino acid residues involved in the species-dependent differences in the pyridoxine transport function of SLC19A3	共著	2022年8月	J. Biol. Chem., Vol. 298, No. 8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) CHT1のcholine輸送機能の評価における細胞膜局在型改変体の利用		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) Functional characteristics and role of DIRC2/SLC49A4 as a novel lysosomal pyridoxine exporter		2022年11月	日本薬物動態学会第37回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1995年1月~現在	日本薬物動態学会評議員・代議員		
2001年3月~現在	日本薬剤学会評議員・代議員		
2014年7月~2022年6月	薬学共用試験センター理事		
2017年1月~2018年6月	日本薬剤学会第33年会組織委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	医療薬学講座
職名	講師	氏名	保嶋 智也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年4月～	「臨床薬学VI」「放射薬品学」では、教科書に基づいたパワーポイントを用いて講義を行い、理解を助けるための講義資料を作成している。講義内では、練習問題を取り上げ、学生の理解度を高めるように努力している。
2	作成した教科書、教材、参考書		該当なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Functional characterization of human organic anion transporter 10 (OAT10/SLC22A13) as an orotate transporter	共著	2022年4月	Drug Metab Pharmacokinet., 43, 10044
(論文) Proinflammatory cytokines inhibit thiamin uptake by human and mouse pancreatic acinar cells: involvement of transcriptional mechanism(s).	共著	2021年1月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol., 320, G108-G116
(論文) pH-dependent pyridoxine transport by SLC19A2 and SLC19A3: Implications for absorption in acidic microclimates.	共著	2020年12月	J Biol Chem., 295, 16998-17008
(論文) Identification of the amino acid residue responsible for the myricetin sensitivity of human proton-coupled folate	共著	2019年12月	Sci Rep., 9, 18105
(論文) Urate transport function of rat sodium-dependent nucleobase transporter 1.	共著	2018年3月	Physiol Rep., 6, e13714
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) CHT1のcholine輸送機能の評価における細胞膜局在型改変体の利用		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) Molecular mechanism involved in the animal species-dependent differences in the atenolol transport function of OCT2/SLC22A2		2022年11月	日本薬物動態学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年10月～現在	日本薬物動態学会 代議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物動態制御学
職名	助教	氏名	山城貴弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～	「薬学演習」、「ドラッグデリバリー論」では、パワーポイントを用いて講義を行っている。講義では最新の知見も取り上げ、興味を持って聴講してもらえるように努力している。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Identification of the amino acid residue responsible for the myricetin sensitivity of human proton-coupled folate transporter	共著	2019年12月	Sci Rep, 9, 18105.
(論文) pH-dependent pyridoxine transport by SLC19A2 and SLC19A3: Implications for absorption in acidic microclimates	共著	2020年12月	J Biol Chem, 295, 16998-17008.
(論文) Functional characterization of human organic anion transporter 10 (OAT10/SLC22A13) as an orotate transporter	共著	2022年4月	Drug Metab Pharmacokinet, 43, 100443.
(論文) Animal species differences in the pyridoxine transport function of SLC19A3: Absence of Slc19a3-mediated pyridoxine uptake in the rat small intestine	共著	2022年6月	Drug Metab Pharmacokinet, 44, 100456.
(論文) Identification of the amino acid residues involved in the species-dependent differences in the pyridoxine transport function of SLC19A3	共著	2022年6月	J Biol Chem, 298, 102161.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) SLC19A3のpyridoxine輸送機能の動物種差:ラット小腸におけるSlc19a3のpyridoxine輸送機能欠損の検証		2022年5月	日本薬学会第37年会
(演題名) SLC19A2/3のamiloride輸送機能		2022年10月	第43回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年7月～現在	日本薬物動態学会会員		
2013年2月～現在	日本薬学会会員		
2014年11月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 名古屋市立大学	講座名 病態解析学	職名 教授	氏名 青山峰芳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬剤師教育のための医療現場の実際が伝わる臨床薬学教育		2015年から	3年および4年における臨床薬学1、2、3、4を担当した。4年における事前学習において、フィジカルアセスメント実習を担当した。
2 作成した教科書、教材、参考書 やさしい臨床医学テキスト（第4版）		2018年1月	将来、薬剤師として医療現場で活躍する際に疾患の病態がより理解できるような教科書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 東海薬剤師生涯学習センター講座		2022年2月	薬剤師の卒後教育として、医師との疑義照会の実際を具体的な場面を想定して様々な医師役を演じて研修を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
（論文）Insulin-like growth factor 2 promotes osteoclastogenesis increasing inflammatory cytokine levels under hypoxia.	共著	2022年7月	J Pharmacol Sci. 149(3):93-99.
（論文）The inducible nitric oxide synthase pathway promotes osteoclastogenesis under hypoxic culture conditions.	共著	2021年12月	Am J Pathol. 191(12):2072-2079.
（論文）Insufficient thrombopoietin due to hepatic dysmature results in thrombocytopenia in small-for-gestational-age rats.	共著	2021年2月	Br J Haematol. 192(4):e105-e108.
（論文）Photodynamic therapy exploiting the anti-tumor activity of mannose-conjugated chlorin e6 reduced M2-like tumor-associated macrophages.	共著	2021年2月	Transl Oncol. 14(2):101005.
（論文）Prolonged astrocyte-derived erythropoietin expression attenuates neuronal damage under hypothermic conditions.	共著	2020年5月	J Neuroinflammation. 17(1):141.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）IL-1βは非破骨細胞のケモカインとIGF2の発現を上昇させることで破骨細胞の分化を促進する		2022年7月	第40回日本骨代謝学会学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	日本生理学会 評議員		
2019年4月～現在	日本薬理学会 評議員		
2017年4月～2019年3月	日本薬学会 代議員		
2021年4月～2023年3月	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態解析学分野
		職名	助教
		氏名	青木 啓将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年～	「機能形態学Ⅱ」「臨床薬学Ⅲ」「臨床薬学Ⅳ」「病態解析学特論」では今までに培った臨床的知見やエピソードをできる限り交え、医療関連の知識を記憶に定着しやすいように工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Photodynamic therapy using mannose-conjugated chlorin e6 increases cell surface	共著	2022年	Med Oncol 39:82
(論文) Photodynamic therapy exploiting the anti-tumor activity of mannose-conjugated	共著	2021年	Transl Oncol 14(2):101005
(論文) Laminin 221 fragment is suitable for the differentiation of human induced pluripotent	共著	2020年	Fluids Barriers CNS 17(1):25
(論文) Efficient differentiation and purification of human induced pluripotent stem	共著	2020年	Heliyon 6(3):e03493
(論文) EGF receptor kinase suppresses ciliogenesis through activation of USP8	共著	2018年	Nat Commun 9(1):758
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) IL-1βは非破骨細胞のケモカインとIGF2の発現を上昇させることで破骨細胞の分化を促進する		2022年7月	日本骨代謝学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年9月～現在	救急救命士養成教育 薬理学担当		
2021年4月～現在	名古屋市立大学 医薬看連携地域参加型学習 委員		
2017年～	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	病態解析学
職名	助教	氏名	鳥内 皐暉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Prolonged astrocyte-derived erythropoietin expression attenuates neuronal damage under hypothermic conditions	共著	2020年5月	<i>Journal of Neuroinflammation</i> 17(1) 141
(論文) The Secreted Glycoprotein Reelin Suppresses the Proliferation and Regulates the Distribution of Oligodendrocyte Progenitor Cells in the Embryonic	共著	2020年9月	<i>The Journal of Neuroscience</i> 40(40) 7625-7636
(論文) Insufficient thrombopoietin due to hepatic dysmature results in thrombocytopenia in small - for - gestational - age rats	共著	2021年2月	<i>British Journal of Haematology</i> 192(4) e105-e108
(論文) Hypothermia Attenuates Neuronal Damage via Inhibition of Microglial Activation, Including Suppression of Microglial Cytokine Production and Phagocytosis	共著	2021年4月	<i>Cellular and Molecular Neurobiology</i> 41(3) 459-468
(論文) Interleukin-1 β enhances cell adhesion in human endothelial cells via microRNA-1914-5p suppression	共著	2021年6月	<i>Biochemistry and Biophysics Reports</i> 27 101046
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年-現在	日本神経化学会 所属		
2017年-現在	日本神経科学学会 所属		
2018年-現在	日本生理学会 所属		
2018年-現在	日本薬学会 所属		
2019年-現在	日本薬理学会 所属		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞情報学
職名	教授	氏名	林 秀敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			医薬品代謝学、臨床薬学I(臨床検査)、免疫学、公衆衛生学等では、教科書を基本に高度な内容も含め、パワーポイントの資料を配布し講義を行い、講義終了時の確認テスト、質問や要望に対して丁寧にフィードバックし、学生評価も高い。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年8月	若手薬学教育者のためのアドバンストWS タスク
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015-2022 (8月) 2021年10月 随時 2017-2020	高大連携 大学丸ごと研究室体験 瑞穂区連携 夏の薬学教室 高校教員を対象とした大学説明会、高校訪問 文部科学省薬学教育指導者のためのWS 参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) USP17 prevents cellular senescence by stabilizing the methyltransferase SET8 and transcriptionally repressing p21.	共著	2019年11月	Journal of Biological Chemistry, vol.294, No.44
(論文) Transcriptional coactivator TAZ negatively regulates tumor suppressor p53 activity and cellular senescence.	共著	2020年1月	Cells, vol.9, No.171
(論文) Periplocin and cardiac glycosides suppress endoplasmic reticulum stress response.	共著	2021年5月	Scientific Reports, vol. 11, No.9528
(論文) The deubiquitinating enzyme USP17 regulates c-Myc levels and controls cell proliferation and glycolysis.	共著	2022年2月	FEBS letters, vol.596 No.4
(論文) HMG-CoA Reductase Inhibitor Statins Activate the Transcriptional Activity of p53 by Regulating the Expression of TAZ.	共著	2022年8月	Pharmaceuticals, vol.15 No.1015
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 強心配糖体periplocinは多発性骨髄腫において小胞体ストレス応答を抑制し、抗がん活性を示す		2022年11月	日本生化学会
(演題名) 脱ユビキチン化酵素USP17はがん遺伝子産物c-Mycの安定化を介して細胞増殖と解糖系を亢進する		2022年12月	日本分子生物学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年3月～現在	日本薬学会理事		
2017年4月～2020年3月	日本薬学会薬学教育委員会委員		
2017年8月～2020年7月	愛知県薬事審議会委員		
2017年4月～2020年3月、2021年4月～2022年3月	薬学教育評価機構評価実施員		
2012年9月～現在	薬学共用試験センター試験統括委員会委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞情報学
職名	氏名 井上 靖道		
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年4月～	「医薬品代謝学」「免疫学」「放射薬品学」「公衆衛生学」「臨床薬学I」では、教科書をもとに参考となる資料を示したパワーポイントを用いて抗議を行っている。講義に終わりには小テスト・授業アンケートをとり、次回講義の冒頭に理解度を高めるよう説明を行い努力している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和2年	明和高校を訪問し、模擬授業を行った（SSH事業）。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The deubiquitinating enzyme USP17 regulates c-Myc levels and controls cell proliferation and glycolysis	共著	2022	FEBS Lett. 2022 Feb;596(4):465-478
(論文) Periplocin and cardiac glycosides suppress the unfolded protein response	共著	2021	Sci Rep. 2021 May 4;11(1):9528
(論文) A novel negative regulatory mechanism of Smurf2 in BMP/Smad signaling in bone	共著	2020	Bone Res. 2020 Nov 23;8(1):41
(論文) The ubiquitin-specific protease USP17 prevents cellular senescence by stabilizing the methyltransferase SET8 and transcriptionally repressing p21	共著	2019	J Biol Chem. 2019 Nov 1;294(44):16429-16439
(論文) Long Noncoding RNA ELIT-1 Acts as a Smad3 Cofactor to Facilitate TGFβ/Smad Signaling and Promote Epithelial-Mesenchymal Transition	共著	2019	Cancer Res. 2019 Jun 1;79(11):2821-2838
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 脱ユビキチン化酵素USP17はc-Mycタンパクの安定化を介して細胞増殖と解糖系を亢進する		2022年6月	第26回日本がん分子標的治療学会学術集会
(演題名) 脱ユビキチン化酵素USP17はc-Mycタンパクの安定化を介して細胞増殖と解糖系を亢進する		2022年9月	第81回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
平成26年4月～現在	名古屋市立大学薬友会理事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	名古屋市立大学	講座名	細胞情報学	職名 講師	宮嶋ちはる
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年9月24日 2021年5月20日 2021年5月24日	プレゼンテーション演習にて、プレゼンテーションの発表、スライドの作成方法や質疑応答の基礎知識を教育した。役割を決めて、学生全員が参加できるよう工夫した。 生命薬学専攻入門PBLにて、論理的思考の確立や問題解決力、またコミュニケーション能力を教育した。学生全員が円滑にコミュニケーションをはかれるよう、発表を促すなどの工夫をした。 生物系実習にて、糖アミノ酸の定性反応、酵素活性や細胞死について実習形式で教育した。実験内容を理解できるようにT/Aを配置し、質問しやすい環境を作った。		
2	作成した教科書、教材、参考書		なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年11月20日 2020年5月22日 2021年10月7日	生物統計学Ⅱの研究授業に参加 医薬品代謝解析学の研究授業に参加 生薬学Ⅱの研究授業に参加		
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称		
(論文) <i>The ubiquitin-specific protease USP17 prevents cellular senescence by stabilizing the methyltransferase SET8 and transcriptionally repressing p21</i>	共著	2019年11月	J Biol Chem. vol. 294 No. 44		
(論文) <i>Transcriptional Coactivator TAZ Negatively Regulates Tumor Suppressor p53 Activity and Cellular Senescence.</i>	共著	2020年2月	Cells. Vol. 9 No. 1		
(論文) <i>Anti-Inflammatory Activity of Kurarinone Involves Induction of HO-1 via the KEAP1/Nrf2 Pathway</i>	共著	2020年9月	Antioxidants (Basel) vol. 9 No. 9		
(論文) <i>Periplocin and cardiac glycosides suppress the unfolded protein response.</i>	共著	2021年5月	Sci Rep. vol. 11 No. 1		
(論文) <i>The deubiquitinating enzyme USP17 regulates c-Myc levels and controls cell proliferation and glycolysis.</i>	共著	2022年2月	FEBS Lett. Vol. 596 No. 4		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
(演題名) 高LDL血症におけるマクロファージ泡沫化に対するPlasmin活性の役割		2019年6月	pharmaco-Hematology シンポジウム		
(演題名) <i>Transcriptional coactivator TAZ negatively regulates tumor-suppressor p53 activity.</i>		2020年12月	日本分子生物学会		
(演題名) <i>Transcriptional Coactivator TAZ Negatively Regulates Tumor Suppressor p53 Activity and Cellular Senescence.</i>		2021年12月	日本分子生物学会		
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)					
2012年8月～現在	日本分子生物学会 正会員				
2016年1月～現在	日本薬理学会 正会員				
2016年11月～現在	日本血栓止血学会 正会員				

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	神経薬理学
		職名	教授
		氏名	糸 和彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月～	薬理(毒性)学ⅡⅣ/臨床薬学Ⅲ/薬学概論/機能形態学Ⅰ/医療機能系実習Ⅱ等を担当。主任の薬理学ではスマホクリッカーアプリを導入、アクティブラーニングを行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	令和元年8月	臨床薬学テキスト(中山書店) 神経・筋・精神/麻酔・鎮痛 分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和2年4月～	コロナ禍で教務委員長として薬学部専門科目を全てオンライン化し、Zoomなどを導入した。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	時間の分子生物学 ～時計と睡眠の遺伝子～	単著	2022年2月
	<i>rdgB</i> knockdown in neurons reduced nocturnal sleep in <i>Drosophila melanogaster</i> .	共著	2022年12月
	Interneurons of fan-shaped body promote arousal in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年11月
	Yamaguchi S et al. The regulation of circadian rhythm by insulin signaling in <i>Drosophila</i>	共著	2022年10月
	Miyagawa T et al. A rare genetic variant in the cleavage site of prepro-orexin is associated with	共著	2022年4月
	Nakagawa H. et al. Biological functions of $\alpha 2$ -adrenergic-like octopamine receptor in <i>Drosophila melanogaster</i> .	共著	2022年3月
	Yamaguchi S et al. Insulin signaling in clock neurons regulates sleep in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年2月
	Nakagawa H. et al. Effects of D-amino acids on sleep in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年1月
	Gao T. et al. GI-SleepNet: A Highly Versatile Image-Based Sleep Classification Using a Deep Learning Algorithm.	共著	2021年11月
	Tomita J. et al. Protocerebral Bridge Neurons That Regulate Sleep in <i>Drosophila melanogaster</i>	共著	2021年10月
	Kon N. et al. Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger mediates cold Ca ²⁺ signaling conserved for temperature-compensated circadian rhythms	共著	2021年4月
	Ambati et al. Kleine-Levin syndrome is associated with birth difficulties and genetic variants in the TRANK1 gene loci	共著	2021年3月
	Muto T. et al. Sleep-improving effects of a novel motion mattress.	共著	2021年2月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	Kume K., Distinct dopaminergic pathways converge and regulate arousal in the central complex of <i>Drosophila</i> . (招待講演)	2022年8月	20th Sapporo Symposium on Biological Clock, 札幌
	Yamamoto J et al, Functional analysis of dorsal lateral neuron on sleep regulation in <i>Drosophila melanogaster</i> (ジュニア優秀ポスター賞受賞)	2022年7月	Neuro2022, 沖縄
	Garibagaoglu R. et al. Sleep alterations by dietary regulations in a <i>Drosophila</i> dopamine transporter mutant	2022年7月	Neuro2022, 沖縄
	糸 和彦, マイノリティの視点から(シンポジウム3)	2022年6月	第47回日本睡眠学会学術大会、京都
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
平成26年1月～現在	日本睡眠学会評議員		
平成29年1月～現在	日本時間生物学会副理事長		
令和2年9月	第27回 日本時間生物学会学術集会 大会長		
令和5年9月(予定)	日本睡眠学会・日本時間生物学会合同大会2023 大会長		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	神経薬理学
		職名	准教授
		氏名	大澤匡弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 反転授業を用いた臨床薬学教育の実践 TBL (Team-based learning) を用いた臨床薬学教育の実践		2017年 4月～ 2017年 4月～	講義には反転授業を取り入れ、学生の臨床応用力の育成に力を入れている。講義の前に次回の講義のダイジェスト動画を作製し学生へ配信し、講義内容は臨床での事例を挙げながら、基礎的な知識を臨床に応用する事例を示す。最後に理解度を確認するため、講義の内容に関する設問に答えさせた。本取り組みでは、予習をした学生の講義に対する満足度や理解度は格段に高まっただけでなく、多数の学生から、本取り組みで配布する講義資料が学生の予習、復習に役立つとの意見があった。 講義にはTBLを取り入れ、学生間でグループディスカッションを行い設問に回答させることで、講義内容の理解を深める取り組みを行った。競争的要素を取り入れ、設問への正解率がチームの勝敗を決める要素を取り入れ、学生たちが熱心に取り組むような配慮を行った。本取り組みの結果、他者との議論の重要性だけでなく、様々な視点から意見が得られ、視野が広がるという意見があった。
2 作成した教科書、教材、参考書 コンパス薬物治療学 (南江堂)		2019年 2月	コンパス薬物治療学の中で、緩和医療についての単元を分担執筆し、がん患者の緩和ケアに用いられる薬物やがん患者の全身的な病態生理学について執筆を行った。また、がん悪液質に関して平易な言葉で解説を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 OSCEモニター員		2021年 4月～ 2022年 3月	名城大学で開催されるOSCE試験が適正に開催されていることを確認するため、OSCE試験の計画書の確認、OSCE試験当日の運営の確認、試験あ時でのトラブルの対応などを行った。本試験に加えて、追・再試験についても、モニター員としてOSCE試験が適正に開催されているかを確認した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数) 等の名称
(論文) <i>Neoline, an active ingredient of the processed aconite root in Goshajinkigan formulation, targets Nav1.7 to ameliorate mechanical hyperalgesia in diabetic mice.</i>	共著	2020年9月	<i>Journal of Ethnopharmacology</i> 第259巻
(論文) <i>Visualization of brain activity in neuropathic pain model using quantitative activity-dependent manganese magnetic resonance imaging (qAIM-MRI).</i>	共著	2019年11月	<i>Frontiers in Neural Circuits</i> 第13巻
(論文) <i>Involvement of L-lactate in hippocampal dysfunction of type 1 diabetes.</i>	共著	2019年9月	<i>Journal of Pharmacological Sciences</i> 第141巻第1号
(論文) <i>Neolin is the active ingredient of processed aconite root against peripheral neuropathic pain.</i>	共著	2019年9月	<i>Journal of Ethnopharmacology</i> 第241巻
(論文) <i>Astrocyte-neuron lactate shuttle sensitizes nociceptive transmission in the spinal cord.</i>	共著	2019年1月	<i>Glia</i> 第67巻第1号

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）がんに見られる悪液質に対する漢方薬の影響	2022年8月	第39回和漢医薬学会学術集会
（演題名）がんに見られる悪液質に対する漢方薬の影響	2022年5月	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会
（演題名）基礎研究から眺めるがん悪液質治療	2022年5月	第15回日本緩和医療薬学会年会
（演題名）がん悪液質に対する漢方薬の有効性	2022年5月	第9回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会
（演題名）痛みを慢性化する脳回路の探索	2022年1月	痛み研究会2021
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年4月～現在	神経行動薬理若手研究者の集い世話人代表	
2021年4月～現在	日本薬学会代議員	
2020年4月～現在	医薬品医療機器総合機構（PMDA）専門員	
2012年6月～現在	日本緩和医療薬学会理事	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	神経薬理学
職名	講師	氏名	富田 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	なし
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Insulin signaling in clock neurons regulates sleep in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年2月	Biochemical and Biophysical Research Communications vol. 591
(論文) Biological functions of $\alpha 2$ -adrenergic-like octopamine receptor in <i>Drosophila melanogaster</i> .	共著	2022年4月	Genes, Brain, and Behavior vol. 21
(論文) The regulation of circadian rhythm by insulin signaling in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年10月	Neuroscience Research vol. 183
(論文) Interneurons of fan-shaped body promote arousal in <i>Drosophila</i> .	共著	2022年11月	PLOS ONE vol. 17
(論文) <i>rdgB</i> knockdown in neurons reduced nocturnal sleep in <i>Drosophila melanogaster</i> .	共著	2022年12月 受理	Biochemical and Biophysical Research Communications vol. 643
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Functional analysis of dorsal lateral neuron on sleep regulation in <i>Drosophila melanogaster</i> .		2022年7月	第45回日本神経科学大会
時計神経 dorsal lateral neurons による睡眠制御		2022年12月	第29回日本時間生物学会学術大会
ショウジョウバエの闘争に関わるドーパミン作動性神経による睡眠制御		2022年12月	第29回日本時間生物学会学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年1月~現在	日本睡眠学会 冬の学校 世話人		
2013年8月~現在	日本時間生物学会 評議員		
2020年9月	第27回日本時間生物学会学術大会実行委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧									
大学名	名古屋立大学	講座名	医薬品安全性評価学分野	職名	教授	氏名	頭金正博		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				平成23年4月～		生物統計学I、IIでは教科書に基づいたパワーポイントを用いて講義を行っている。講義毎に宿題を課し翌週までに解答を提出させ、学生の理解が深まるようにしている。また、IとIIのそれぞれで1回ずつエクセルを用いた生物統計学のパソコン実習を行い、実際の研究で学生自身が統計的な処理を行えるようにしている。			
2 作成した教科書、教材、参考書				平成29年9月		図解 薬害・副作用学 (改訂2版)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				令和2年度 令和2年度 令和3年度		経営人材育成講座 AI・IoT人材育成講座」で講演。 医学研究科オープンカレッジ (第3期) くすりの開発と市販後の調査に関する最近の話題について講演。 近隣の高校を訪問し、薬学部での研究紹介を行った。			
II 研究活動									
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月 (西暦)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) In Silico Approach to Predict Severe Cutaneous Adverse Reactions Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database.				共著		2021年3月		Clin Transla Sci. 2021 Mar;14(2):756-763.	
(論文) Points to consider for implementation of the ICH E17 guideline: learning from past multi-regional clinical trials (MRCTs) in Japan.				共著		2021年6月		Clin Pharmacol Ther. 2021 Jun;109(6):1555-1563.	
(論文) Development of quantitative model of a local lymph node assay for evaluating skin sensitization potency applying machine learning CatBoost.				共著		2021年10月		Regul Toxicol Pharmacol. 2021 Oct;125:105019.	
(論文) HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: An exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1).				共著		2021年12月		Cancer Sci. 2021 Dec;112(12):5011-5019.	
(論文) Comparison of efficacy of dipeptidyl peptidase-4 inhibitors and sodium-glucose co-transporter 2 inhibitors between Japanese and non-Japanese patients: a meta-analysis.				共著		2020年5月		Clin Transla Sci. 2020 May;13:498-508.	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)						発表年・月		学会名	
(演題名) 機械学習アプローチを用いたin silicoモデルによるヘアカラー原料の皮膚感作性強度予測						2022年6月		第47回日本化粧品学会	
(演題名) FAERSを用いた機械学習による薬物性肝障害の予測						2022年6月		第49回日本毒性学会学術年会	
(演題名) 機械学習アプローチによる皮膚感作性強度を予測する回帰モデルの開発						2022年6月		第49回日本毒性学会学術年会	
(演題名) 副作用報告データベースを用いた直接経口抗凝固薬による中枢神経系出血性副作用に対するプロトンポンプ阻害薬併用の影響に関する解析						2022年7月		第68回日本薬学会東海支部総会・大会	
(演題名) 臨床試験データを用いた疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARDs) の安全性の研究						2022年7月		第6回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会	
(演題名) 悪性腫瘍患者における化学療法中の低Na血症の発症を予測する機械学習モデルの構築						2022年8月		第8回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム	
(演題名) 皮膚感作性のin vitro試験法であるKeratinSensTMの結果を予測する機械学習モデルの構築						2022年8月		第8回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム	

(演題名) 既存の臨床試験データによる疾患修飾性抗リウマチ薬とメトトレキサート併用時の有効性と安全性の解析	2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
(演題名) Prediction of drug-induced liver injury in silico using large-scale adverse event database	2022年10月	CBI学会2022年大会
(演題名) 化学構造情報からヒトの皮膚感作性を予測する機械学習モデルの開発	2022年11月	日本動物実験代替法学会 第35回大会
(演題名) 皮膚感作性評価におけるin vitro試験法の効率化を目指した機械学習モデルの開発	2022年11月	日本動物実験代替法学会 第35回大会
(演題名) 化学構造の画像認識技術を用いた機械学習によるCYP3A4阻害活性の予測モデルの開発	2022年11月	日本薬物動態学会第37回年会
(演題名) モガムリズマブ投与患者における重篤な皮膚障害の発症に関連するバイオマーカーの探索研究	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 医薬品添付文書の重大な副作用の追記を予測する機械学習モデルの開発	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 医療情報データベースを活用した抗菌薬による薬剤性急性腎障害の発症リスク及び慢性腎臓病へ移行するリスクの評価	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 臨床試験データを用いた生物学的製剤およびJAK阻害薬のメトトレキサート併用療法における有効性と安全性に関する研究	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) ナショナルレセプトデータベース (NDB) を使用したワルファリンに対する直接経口抗凝固薬 (DOAC) の有用性に関する研究	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 非弁膜症性心房細動患者における直接経口抗凝固薬 (DOAC) の有効性・安全性の評価～ナショナルレセプトデータベースを用いた解析～	2022年12月	第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 化学構造情報とin vitro情報を使用した特異体質性薬物性肝障害の機械学習を用いた予測手法の開発	2022年12月	第5回医薬品毒性機序研究会
(演題名) JAPIC AERSと機械学習を活用した胆汁うっ滞型薬物性肝障害の予測モデルの開発	2023年3月	日本薬学会第143年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）

2009年12月～現在	日本薬物動態学会代議員
2011年4月～現在	(独) 医薬品医療機器総合機構専門委員
2011年9月～現在	日本薬理学会学術評議員
2011年9月～現在	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会常任世話人
2013年12月～現在	日本臨床薬理学会評議員（社員）
2013年9月～現在	日本毒性学会評議員
2014年9月～現在	(独) 医薬品医療機器総合機構 MedNetの利活用に関する有識者会議構成員
2017年4月～現在	厚生労働省 薬事・食品衛生審議会化学物質安全対策部会委員
2020年9月～現在	厚生労働省 薬事・食品衛生審議会添加物部会委員
2021年9月～現在	内閣府食品安全委員会添加物専門調査会専門参考人
2021年9月～現在	内閣府食品安全委員会栄養成分WG専門参考人
2023年1月～現在	環境省PFOS・PFOAに係る水質の目標値等の専門家会議委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	名古屋市立大学	講座名	医薬品安全性評価学	職名	講師	氏名	安部 賀央里
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 学生評価に基づく改善				2019-現在	2年生前期生物統計学I・II		
2 作成した教科書、教材、参考書 無し							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 無し							
4 その他教育活動上特記すべき事項 模擬講義 「キャリアパスについて」 南山高等学校女子部 令和4年度 大学丸ごと研究室体験 「データ分析をやってみよう! : データ分析でコロナウイルスに立ち向かう」				2020年2月8日 2022年7月27日	高校を訪問し、薬学部について紹介した。 市立高校の学生を対象にデータ解析の演習を行った。		
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) Ambe K, Ishihara K, Ochiba I, Ohya K, Tamura S, Inoue K, Yoshida M, Tohkin M. In silico prediction of				共著	2018年4月	Toxicological Sciences 2018 Apr; 162(2): 667-675.	
(論文) Ambe K, Sakakibara Y, Sakabe A, Makino H, Ochiba I, Tohkin M. Comparison of the developmental/reproductive				共著	2019年4月	J. Toxicol. Sci. 2019 Apr;44(4): 245-255.	
(論文) Ito Y, Ambe K, Hayase I, Kobayashi M, Tohkin M. Comparison of efficacy of dipeptidyl peptidase-4				共著	2020年5月	Clin Transl Sci. 2020 May;13(3):498-508.	
(論文) Ambe K, Ohya K, Takada W, Suzuki M, Tohkin M. In Silico Approach to Predict Severe Cutaneous Adverse				共著	2021年5月	Clin Transl Sci. 2021 Mar;14(2):756-763.	
(論文) Ambe K, Suzuki M, Ashikaga I, Tohkin M. Development of quantitative model of a local lymph node				共著	2021年10月	Regul Toxicol Pharmacol. 2021 Oct;125:105019.	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
安部賀央里、成田和人、小林睦、立花滋博、村崎直、鈴木政晴、頭金正博、足利太可雄:機械学習アプローチを用いたin silicoモデルによるヘアカラー原料の皮膚感				2022年6月	第47回日本化粧品学会		
安部賀央里:ヒトの副作用予測に向けた機械学習アプローチ				2022年6月	第49回日本毒理学学会学術年会		
村崎直、安部賀央里、頭金正博、山田隆志、足利太可雄:機械学習アプローチによる皮膚感作性強度を予測する回帰モデルの開発				2022年6月	第49回日本毒理学学会学術年会		
土井更良、安部賀央里、頭金正博:FAERSを用いた機械学習による薬物性肝障害の予測モデルの開発				2022年6月	第49回日本毒理学学会学術年会		
吉井優花、大西真由、秋田彩祐、安部賀央里、頭金正博:臨床試験データを用いた疾患修飾性抗リウマチ薬(DMARDs)の安全性の研究				2022年7月	第6回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会		
木下啓、安部賀央里、足利太可雄、頭金正博:皮膚感作性のin vitro試験法であるKeratiSenseTMの結果を予測する機械学習モデルの構築				2022年8月	第8回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム		
青木優佳、安部賀央里、村島美穂、濱野高行、頭金正博:悪性腫瘍患者における化学療法中の低Na血症の発症を予測する機械学習モデルの構築				2022年8月	第8回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム		
吉井優花、大西真由、秋田彩祐、安部賀央里、頭金正博:臨床試験データを用いた疾患修飾性抗リウマチ薬とメトトレキサート併用時の有効性と安全性の解析				2022年9月	第32回日本医療薬学会年会		
Sarara Doi, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin: Prediction of drug-induced liver injury in silico using large-scale adverse event database				2022年10月	CBI 学会2022年大会		
伊藤清、安部賀央里、足利太可雄、頭金正博:ヒト皮膚感作性データを用いた機械学習によるin silico予測モデルの開発				2022年11月	日本動物実験代替法学会第35回大会		
榎波多真奈、安部賀央里、頭金正博:化学構造の画像認識技術を用いた機械学習によるCYP3A4阻害活性の予測モデルの開発				2022年11月	日本薬物動態学会第37回年会		
大西真由、吉井優花、劉臨風、安部賀央里、頭金正博:臨床試験データを用いた生物学的製剤およびJAK阻害薬のメトトレキサート併用療法における有効性と安全性に				2022年12月	第43回日本臨床薬理学会学術総会		
Kaori Ambe : Development of in silico model for skin sensitization evaluation using machine learning				2022年12月	ACAAE2022, the 3rd Asian Congress for Alternatives to Animal Experiments		
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)							
2015年2月~現在				日本薬学会会員			
2020年4月~現在				日本毒理学学会評議員			
2019年6月~現在				CBI学会会員			
2019年9月~現在				日本薬物動態学会会員			
2022年4月~現在				日本動物実験代替法学会会員			
2022年4月~現在				日本化粧品学会会員			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	医薬品安全性評価学
職名	助教	氏名	柴田 侑裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	なし	
2	作成した教科書、教材、参考書	なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Drug interaction between cyclophosphamide and voriconazole via inhibition of CYP2B6 evidenced by in vitro cocktail incubation, animal experiment and adverse event report database survey.	共著	2021	Drug metab. and pharmacokinet. 39
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ABCBI遺伝子の変異(G3751A)がSimvastatin acidの薬物動態に与える影響		2023年3月	第143回日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年~2021年	千葉大学薬学部薬剤師卒後教育講座 運営		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	病院薬剤学
職名	講師	氏名	堀田 祐志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年4月～	「創薬と生命」「くすりと社会」「機能形態学Ⅱ」「薬学演習Ⅱ」では、パワーポイントを用いた資料を学生に配布し、復習など学生の理解がしやすい様に努めている。また講義では、臨床現場での話やクイズ形式を採用するなど、学生の学修意欲を高める様に工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成29年4月～ 平成30年8月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海(愛知)タスクフォースとして従事している。(令和元年度、令和2年度は事務局担当) なつやすみ薬学教室に従事
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) <i>Effect of Replicative Senescence on Expression and Function of Transporters in Human Proximal Renal Tubular Epithelial Cells.</i>	共著	2022年 <i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i>
	(論文) <i>Development and Evaluation of a Novel Software Program, SAKURA-TDM, for AUC-guided Vancomycin Dosing.</i>	共著	2022年 <i>Therapeutic Drug Monitoring</i>
	(論文) <i>Effect of high testosterone levels on endothelial function in aorta and erectile function in rats.</i>	共著	2022年 <i>Sexual Medicine. 10(2):100500. 2022.</i>
	(論文) <i>Clinical Usefulness of the "MN Criteria" - the Clostridioides difficile Infection Severity Scoring System - in the Japanese Setting.</i>	共著	2022年 <i>Internal Medicine.</i>
	(論文) <i>Protective effects of tadalafil on damaged podocytes in an adriamycin-induced nephrotic syndrome model.</i>	共著	2022年 <i>Journal of Pharmacological Sciences</i>
	(論文) <i>Evaluating the Effects of Low Carbohydrate and High Protein Diet on Erectile Function in Rats.</i>	共著	2022年 <i>Sexual Medicine. 10(2):100484. 2022.</i>
	(論文) <i>Change in the central control of the bladder function of rats with focal cerebral infarction induced by photochemically-induced thrombosis.</i>	共著	2021年 <i>PLoS One. 16(11):e0255200. 2021.</i>
	(論文) <i>Enhancement of the RhoA/Rho Kinase Pathway is Associated with Stress-Related Erectile Dysfunction in a Restraint Water-Immersion Stress Model.</i>	共著	2021年 <i>Physiol Rep. 9(20):e15064. 2021.</i>
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	(演題名) <i>Symposium 6_ Sexual health promotion and preventive medicine Possibility of light-controllable NO releaser as a novel ED treatment</i>	2022年5月	2022 APSSM & TAASM & GCASMF
	(演題名) 光制御可能なNOドナーによるED改善効果-2種類のEDモデルでの検討-	2022年6月	日本アンドロロジー学会第41回学術大会
	(演題名) 糖尿病性勃起不全モデルに対する光応答性NOドナー「NORD-1」の効果	2022年7月	第32回日本性機能学会中部総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	日本排尿機能学会代議員		
2021年4月～現在	新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種派遣		
2021年4月～現在	日本アンドロロジー学会評議員		
2018年4月～現在	日本薬理学会評議員		
2017年4月～現在	日本性機能学会評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学
職名	教授	氏名	松永 民秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～	医薬品情報学、臨床薬学Ⅳ、薬学概論Ⅰ、臨床薬学実務実習Ⅰ、創薬と生命では、パワーポイントを用いて講義を行い、理解を助けるための講義資料を作成、講義終了後は小テストを実施し、学生の理解度を高めるよう努力している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年11月～	上記講義におけるテキストおよび演習書 図解 医薬品情報学 改訂5版、第7章 医薬品の採用・選択 (南山堂) 執筆、2022年版売予定
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年11月23日 2021年12月13日	創薬基盤研スクリーニングフェア スクリーニングシンポジウム (本学主催) において、「スクリーニング系へのヒトiPS細胞の利用」として講演 高校生向け進学ガイダンスにて講演
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年4、5月 2020年12月1日 2021年12月23日	1. 薬科学概論 2. 医薬品の開発研究に貢献する再生医療技術について 3. ヒトiPS細胞を活用した医薬品評価系の開発とその展望
1, 3) 他大学講義、2) 本学オープンカレッジ			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Laminin 211 fragment is suitable for the differentiation of human induced pluripotent stem cells into brain microvascular endothelial-like cells with robust barrier integrity.	共著	2020年3月	Fluids Barriers CNS. Vol. 17, No. 1
(論文) Inhibition of transforming growth factor β signaling pathway promotes differentiation of human induced pluripotent stem cell-derived brain microvascular endothelial-like cells.	共著	2020年5月	Fluids Barriers CNS. Vol. 17, No. 1
(著書) Gellan gum promotes the differentiation of enterocytes from human induced pluripotent stem cells.	共著	2020年10月	Pharmaceutics. Vol. 12, No. 10
(論文) An Efficient Method for the Differentiation of Human iPSC-Derived Endoderm toward Enterocytes and Hepatocytes.	共著	2021年4月	Cells. Vol. 10, No. 4
(著書) Generation of Budding-Like Intestinal Organoids from Human Induced Pluripotent Stem Cells.	共著	2021年7月	J Pharm Sci. Vol. 110, No. 7
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 細胞と小腸-肝臓連結MPSの開発		2022年5月	第29回HAB研究機構学術年会シンポジウム
(演題名) AMED-MPS事業における二臓器連結デバイスの開発		2022年6月	第49回日本毒性学会学術年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2015年12月～2021年11月	日本薬物動態学会 理事		
2020年10月～現在	日本薬物動態学会 学会活性化委員会 委員長		
2021年6月～現在	日本学術振興会 特別研究員等審査会 専門委員		
2014年7月～現在	内閣府 食品安全委員会の器具・容器包装専門調査会 専門委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学
		職名	教授
		氏名	鈴木 匡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 医学部・薬学部・看護学連携授業の開発と実施		2010年4月～	医療系学部。研究科連携教育委員会を立ち上げ、薬学部・研究科へのIPE導入とその教育評価方法を確立し、継続中。
高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンス教育研究プログラムの開発		2016年4月～	国公立大学が連携して開発する新しい6年制薬学教育、大学院教育プログラムの開発と実施。
2 作成した教科書、教材、参考書 スタンダード薬学シリーズⅡ（東京化学同人） スタンダード薬学シリーズⅡ 薬学演習Ⅰ（東京化学同人）		2018年6月 2020年10月15日	臨床薬学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 編集責任者（一部執筆） 共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 新しい薬学臨床教育のあり方を考える 新しい「臨床薬学」教育の方針と臨床実習の今後の展望		2022年7月24日 2022年9月24日	医療薬学フォーラム特別講演 日本医療薬学会シンポジウム シンポジスト
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本薬学会 第11回全国学生ワークショップ 日本薬学教育学会・東海薬学教育連携コンソーシアム共催 薬学実務実習に関するワークショップ		2021年8月30日31日 2022年3月26日	実行委員として企画から参加（WEBで開催） 全国から臨床系教員、病院、薬局指導薬剤師を集め、名市大で実務実習に関するWSを企画・WEBで実行（事務局責任者）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Comparative trial of the Effects of Continuous Locomotion Training Provided at Pharmacies（原著）	共著	2020年	J. Pharm. Health Care Sci. (6:24)
The Effect of Increased Free Concentration of Warfarin Due to Protein-Binding Substitution in a Combination of Tolvaptan on the PT-INR（原著）	共著	2020年	YAKUGAKU ZASSHI (140)
Enhancement of Warfarin Anticoagulant Reaction in Patients with Repeated Oral Tolvaptan Administration（原著）	共著	2018年	Biol. Pharm. Bull (41)
20年後に求められる人材育成を見据えた薬学教育モデル・コアカリキュラムそして基本的な資質を考える（総説）	単著	2022年	YAKUGAKU ZASSHI (142)
新しい実務実習への大学・学会の主体的貢献（総説）	単著	2021年	薬学教育 第6巻
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
薬局薬剤師による多職種への積極的な在宅支援情報提供の効果検証		2022年9月	日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年6月～	薬学教育協議会 業務執行理事		
2013年6月～	愛知県薬剤師会 常務理事		
2020年9月～	日本薬学教育学会 理事		
2013年11月～	薬学実務実習に関する連絡会議 副座長		
2022年1月～	文部科学省薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会委員		
2022年3月～	厚生労働省 医道審議会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学
職名	准教授	氏名	岩尾 岳洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年～現在	理解度の自己確認を兼ねて、毎回の授業の最後に確認問題を行っている。臨床での応用例を示し、学生がこれまでに座学で学んだことと臨床とのつながりをなるべく感じられるように意識している。(臨床薬学VI)
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年～現在 2015年～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォース(計7回) 薬学共用試験OSCE評価者養成講習会の指導スタッフ(計4回)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Cyclic AMP signaling promotes the differentiation of human induced pluripotent stem cells into intestinal epithelial cells	共著	2018	Drug Metab Dispos, 46, 1411-1419
(論文) Generation of intestinal organoids suitable for pharmacokinetic studies from human induced pluripotent stem cells	共著	2018	Drug Metab Dispos, 46, 1572-1580
(論文) Establishment of a novel culture method for maintaining intestinal stem cells derived from human induced pluripotent stem cells	共著	2020	Biol Open, 9, bio049064
(論文) Pharmacokinetic functions of human induced pluripotent stem cell-derived small intestinal epithelial cells	共著	2020	Drug Metab Pharmacokinet, 35, 374-382
(論文) Generation of budding-like intestinal organoids from human induced pluripotent stem cells	共著	2021	J Pharm Sci, 110, 2637-2650
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒトiPS細胞由来腸管細胞の薬物動態評価への応用		2021年11月	日本薬物動態学会第36回年会
消化管における薬物動態や粘膜障害の評価に向けたヒトiPS細胞の利用		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年4月～現在	病院・薬局実務実習東海地区調整機構(WG委員、事務局長)		
2014年1月～現在	日本薬物動態学会 代議員		
2021年7月～現在	愛知県薬剤師会 薬学教育部会員		
2021年11月～現在	日本薬物動態学会 ニュースレター編集委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学
		職名	氏名 坡下 真大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年10月1日	「コミュニティ・ファーマシー特論」、「個人差・オーダーメイド医療」では、専門的な内容に加え薬学以外の内容も踏まえつつ講義を行っている。「疾病治療論II」では、看護学部生でも分かりやすいスライドを用いて講義を行い、講義の終わりには、小テストで理解度を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年7月 2022年12月	名古屋市女性会リーダー研修にて講演 「新型コロナウイルスのワクチン」 医学部オープンカレッジにて講演 「創薬応用を目指したiPS細胞由来血液脳関門モデルの開発」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effects of Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Intestinal Organoids on Colitis-Model Mice.	共著	In press	Regenerative Therapy
(論文) Generation of budding-like intestinal organoids from human induced pluripotent stem cells.	共著	2021年3月	J Pharm Sci., 110;2637-2650.
(論文) Inhibition of transforming growth factor beta signaling pathway promotes differentiation of human induced pluripotent stem cell-derived brain microvascular endothelial-like cells.	共著	2020年5月	Fluids Barrier CNS., 17(1):36.
(論文) Laminin 221 fragment is suitable for the differentiation of human induced pluripotent stem cells into brain microvascular endothelial-like cells with robust barrier integrity.	共著	2020年3月	Fluids Barrier CNS., 17(1):25.
(論文) Efficient differentiation and purification of human induced pluripotent stem cell-derived endothelial progenitor cells and expansion with the use of inhibitors of ROCK, TGF- β , and GSK3 β .	共著	2020年3月	Heliyon, 6(3):e03493.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 創薬応用を目指したiPS細胞由来血液脳関門モデルの開発		2022年11月	日本動物実験代替法学会
(演題名) Development of human iPS cells derived-brain microvascular endothelial cells in the BBB model for application to drug development		2022年11月	日本薬物動態学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年12月~2022年9月	日本医療薬学会年会実行委員		
2015年10月~現在	実務実習指導薬剤師養成ワークショップ世話人		
2015年10月~現在	日本再生医療学会会員, 日本薬物動態学会会員, 日本医療薬学会会員, 日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	臨床薬学分野
職名		氏名	堀 英生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	令和3年4月～	「臨床薬学II」 「コミュニティファーマシー特論」では、教科書および現在の医療情勢に基づきパワーポイントを用いて講義を行い、また、講義終了時には小レポートを行って学生の理解度が上がるよう努めている。「臨床薬学実務実習I」では、臨床を肌で感じられるようより実践的な実習を行っている。「臨床薬学実務実習II」では、チーム医療のあり方を効果的に学べるよう専門職連携教育を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和4年7月	第89回認定実務実習指導薬剤師ワークショップ in東海(愛知)タスクフォース
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 薬局薬剤師と訪問看護師の患者情報共有による連携の有用性の実践検証	共著	2022年12月	社会薬学. 41, 167-174 (2022)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬局薬剤師による多職種への積極的な在宅支援情報提供の効果検証		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
ドラッグストアID - POS データによる眠気防止剤の購買動向の解析		2022年10月	日本社会薬学会第40年会
薬局から多職種への在宅支援情報データ解析による薬剤師情報提供の有用性に関する考察		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
令和3年4月～現在	薬学教育協議会東海地区調整機構		
令和3年4月～現在	愛知県薬剤師会学術部会		
令和3年9月～現在	桜山糖尿病勉強会世話人		
平成22年1月～現在	日本医療薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料 9)

これ以降、
基礎資料 7 表 3 に該当する兼任教員分

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	精密有機反応学
職名	教授	氏名	梅澤直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017～現在	「有機反応化学I」(2017～現在)「生物有機化学」(2017～2018, 2022)「薬学無機化学」(2022)では、教科書に基づいたパワーポイントを独自に作成して講義を行っている。理解を助けるために、講義資料の印刷・配布を行い、最近では学生に要望に応じてPDFファイルもアップロードしている。講義の初めに復習の小テスト、講義中に練習問題を行い、学生の理解度の把握と向上を図っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2017～現在	「化学系実習III」実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2017～現在	2018は「有機反応化学I」を研究授業として実施し、他の年度は聴講した。
	研究授業	2021	「コロナ禍における新しい授業・学生支援の取り組み」に関する講演会を聴講した。
	FD・SD講演会		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structure-based identification of potent lysine-specific demethylase 1 inhibitor peptides and temporary cyclization to enhance proteolytic stability and cell growth-inhibitory activity.	共著	2021年4月	J. Med. Chem., 64, 3707-3719, 2021.
(論文) Chemoselective arylation of dialkyl diselenides and application to the synthesis of a ϵ -N,N,N-trimethyllysine derivative.	共著	2020年11月	Eur. J. Org. Chem., 2020, 6649-6652, 2020.
(論文) Specific effects of antitumor active norspermidine on the structure and function of DNA.	共著	2019年10月	Sci. Rep., 9, 1-12, 2019.
(論文) Inhibition of FAD-dependent lysine-specific demethylases by chiral polyamine analogues.	共著	2018年10月	RSC Adv., 8, 36895-36902, 2018.
(論文) Development and crystallographic evaluation of histone H3 peptide with N-terminal serine substitution as a potent inhibitor of lysine-specific demethylase 1.	共著	2017年5月	Bioorg. Med. Chem., 25, 2617-2624, 2017.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
非天然ポリアミンの固相合成とDNA熱安定性に及ぼす効果		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～2022年3月	日本薬学会代議員		
2021年6月～現在	日本薬学会 第67回東海支部大会 実行委員, 東海支部学術奨励賞 選考委員		
2019年6月	日本ケミカルバイオロジー学会 第14回年会プログラム委員		
2019年2月	日本酸化ストレス学会東海支部 第7回支部学術集會実行委員		
2016年4月～2018年3月	日本薬学会 東海支部監事		
2003年4月～現在	日本薬学会、日本化学会、アメリカ化学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	精密有機反応学
職名	講師	氏名	久松洋介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年10月~	「ケミカルバイオロジー」、「薬学無機化学(令和4年4月~)」では、教科書に基づいた講義資料を作成、配布し、パワーポイントを用いて講義を行っている。また、講義の途中で問題を提示し、学生が主体的に取り組む機会を作る工夫をしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Design and Synthesis of Tris-Heteroleptic Cyclometalated Iridium(III) Complexes Consisting of Three Different Nonsymmetric Ligands Based on Ligand-Selective Electrophilic Reactions via Interligand HOMO Hopping Phenomena</i>	共著	2017年1月	<i>Inorganic Chemistry</i> , 2017, 56(2), 886-899
(論文) <i>Cationic Amphiphilic Tris-Cyclometalated Iridium(III) Complexes Induce Cancer Cell Death via Interaction with Ca²⁺-Calmodulin Complex</i>	共著	2017年2月	<i>Bioconjugate Chemistry</i> , 2017, 28(2), 507-523
(論文) <i>Design and Synthesis of a 4-Aminoquinoline-Based Molecular Tweezer That Recognizes Protoporphyrin IX and Iron(III)</i>	共著	2018年8月	<i>Chemical Science</i> , 2018, 9(38), 7455-7467
(論文) <i>Effect of the o-Acetamido Group on pH-Dependent Light Emission of a 3-Hydroxyphenyl-Substituted Dioxetane Luminophore</i>	共著	2019年2月	<i>Organic Letters</i> , 2019, 21(5), 1258-1262
(論文) <i>Fluorescence Response and Self-Assembly of a Tweezer-Type Synthetic Receptor Triggered by Complexation with Heme and Its Catabolites</i>	共著	2021年4月	<i>Chemistry - A European Journal</i> , 2021, 27, 6489-6499
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
<i>Self-assembly process of a 4-aminoquinoline-based amphiphile in water</i> (仮)		2022年11月	International Congress on Pure & Applied Chemistry Kota Kinabalu (ICPAC KK) 2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月~2019年3月	日本化学会生体機能関連化学部会若手の会 幹事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	コロイド・高分子物性学分野
		職名	教授
		氏名	山中 淳平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～	「薬学物理化学I、III」は、自身も執筆者の一人である教科書を用い、さらにその内容をより詳しく解説したプリントを配布して行っている。毎回の講義の最後には小テストを行い、理解度を確認している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年	薬学実習書 (コロイド・高分子物性学分野担当分)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年～ 2019年11月	FDの一環として研究授業に参加した 高校を訪問して模擬講義を行なった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Surface Plasmon Resonance of Two-dimensional Gold Colloidal Crystals Formed on Gold Plates.</i>	共著	2022	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 70 (2), 130-137
<i>Particle Adsorption on Polymer Gel Surface Driven by van der Waals Attraction</i>	共著	2022	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i> 95, 314-324
<i>Crystallization of charged gold particles due to depletion attraction in the coexistence of</i>	共著	2021	<i>J. Chem. Phys.</i> , 154, 234901.
<i>Self-Assembled Structures of Colloids.</i>	共著	2020	<i>Acc. Mater. Surf. Res.</i> , 5, 90-97
<i>Two-Dimensional Nonclose-Packed Colloidal Crystals by the Electrostatic Adsorption of</i>	共著	2019	<i>Langmuir</i> , 35, 9194-9201
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
コロイドの自己集合による構造形成 (keynote lecture)		2022.9	コロイドおよび界面科学討論会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021-2022年	日本薬学会 学会誌編集委員		
2018年-2022年	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 幹事		
2018年-2021年	日本結晶成長学会 理事		
2022年	日本マイクロ重力応用学会 理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生命分子薬学
		職名	准教授
		氏名	奥 菌 透
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～	「薬学物理化学Ⅰ、Ⅲ」では読んで理解できるような講義資料を作成し配付している。講義の終わりに小テストを行い、次回の始めに解説を行うことにより、理解の定着を促している。「薬学情報処理演習」では、物理化学や感染症流行のモデル等から題材を取り、エクセルによる計算・可視化の演習
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年9月	薬学実習書：薬学実習の基礎「誤差とその取り扱い方」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Mechanism of diffusiophoresis with chemical reaction on a colloidal particle</i>	共著	2019年1月	<i>Physical Review E</i> vol. 99
(論文) <i>Two-dimensional nonclose-packed colloidal crystals by the electrostatic</i>	共著	2019年7月	<i>Langmuir</i> vol. 35
(論文) <i>Crystallization of charged gold particles mediated by nonadsorbing like-</i>	共著	2021年6月	<i>Journal of Chemical Physics</i> Vol. 154
(論文) <i>Particle Adsorption on Polymer Gel Surface</i>	共著	2022年2月	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i> vol. 95
(論文) <i>Surface Plasmon Resonance of Two-Dimensional Gold Colloidal Crystals</i>	共著	2022年2月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> Vol. 70
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 反応性自己駆動コロイド粒子の数理(仮題)		2023年3月	日本物理学会春季大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年9月～	日本液晶学会代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	コロイド・高分子物性学分野
職名	准教授	氏名	豊玉 彰子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年	薬学実習書(コロイド・高分子物性学分野担当分)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Surface Plasmon Resonance of Two-dimensional Gold Colloidal Crystals Formed on Gold Plates.</i>	共著	2022	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 70 (2), 130-137
<i>Crystallization of charged gold particles due to depletion attraction in the coexistence of</i>	共著	2021	<i>J. Chem. Phys.</i> , 154, 234901.
「荷電コロイド系の結晶化」第1章第1節、豊玉彰子、山中淳平「枯渇引力により生成するコロイド結	共著	2020	「コロイド結晶とその応用」中村浩、山中淳平監修、CRC出版
<i>Self-Assembled Structures of Colloids.</i>	共著	2020	<i>Acc. Mater. Surf. Res.</i> , 5, 90-97
<i>Two-Dimensional Nonclose-Packed Colloidal Crystals by the Electrostatic Adsorption of</i>	共著	2019	<i>Langmuir</i> , 35, 9194-9201
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
界面活性剤概論～物理化学の視点から～		2022. 11	界面科学実践講座 2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年	日本マイクログラビティ応用学会 第34回学術講演会 実行委員		
2021年	日本結晶成長学会 結晶成長ハンドブック編集委員		
2019-2021年度	科学技術交流財団 研究会(高機能コロイド結晶材料研究会)座長		
2017.8.1-2018.7.31	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員、国際事業委員会書面審査員、書面評価員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生命分子構造学分野
職名	准教授	氏名	矢木 宏和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年4月～	「薬学物理化学II」、「構造生物学」では、パワーポイントを用いて講義を行っており、配布資料には、穴開けにして学生に記載してもらうよう努めている。また、講義の最後に、小テストを行い学生の理解度を高めるように努めている。「物理系実習II」では、毎日レポートを提出してもらい、理解度を高めている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成22年4月～	物理系実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和4年7月	模擬講義を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) GALAXY ver3: updated web application for glycosylation profiling based on 3D HPLC map	共著	2022年7月	Glycobiology:32(8):646-650
(論文) Cancer Malignancy Is Correlated with Upregulation of PCYT2-Mediated Glycerol Phosphate Modification of α -Dystroglycan	共著	2022年6月	Int J Mol Sci. 23(12):6662.
(論文) An embeddable molecular code for Lewis X modification through interaction with fucosyltransferase 9.	共著	2022年7月	Commun Biol. 5(1):676
(論文) Comprehensive characterization of oligosaccharide conformational ensembles with conformer classification by free-energy landscape via reproductive kernel Hilbert space	共著	2021年4月	Phys Chem Chem Phys .23(16):9753-9760
(論文) Improved secretion of glycoproteins using an N-glycan-restricted passport sequence tag recognized by cargo receptor	共著	2020年3月	Nat Commun. 11(1):1368.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ジストログリカンの糖鎖伸長終結因子グリセロールリン酸によるがん悪性化機構		2022年9月	日本糖質学会例会
(演題名) 糖鎖修飾の違いがもたらすジストログリカンの機能の多様性		2022年11月	第95回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本バイオイメージング学会 評議員		
2021年4月～現在	比較グライコーム研究会 世話人		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	生命分子構造学
職名	講師	氏名	矢木真穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年4月～現在	「構造生物学」では、教科書・参考図書に基づいて作成したパワーポイントを用いて講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Key residue for aggregation of amyloid- β peptides	共著	2022年10月	ACS Chem. Neurosci. 22, 3139-3151
(論文)Conformational Variability of Amyloid- β and the Morphological Diversity of Its Aggregates	共著	2022年7月	Molecules 27, 4787
(論文)DMSO-Quenched H/D-Exchange 2D NMR Spectroscopy and Its Applications in Protein Science	共著	2022年6月	Molecules 27, 3748
(論文)“地上最強生物”クマムシの乾眠の分子機構の解明に挑む	共著	2022年12月	生化学, 94, No. 6, 888-891
(論文)クマムシの乾燥耐性の仕組み～水分消失に伴うタンパク質の繊維化～	共著	2022年9月	生物物理, 62, 232-234
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
GM1ガングリオシド膜上で触媒的に線維形成を促進するアミロイド β 集合体の構造解析		2023年3月	日本薬学会第143年会
The double-layered structure of amyloid- β assemblage on GM1-containing membranes		2023年1月	Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences
微小重力環境下におけるアミロイド線維形成		2022年9月	日本マイクログラビティ応用学会第34回学術講演会
アミロイド β の構造変化とアッセムブリー		2022年7月	生物物理サブグループ「次世代NMRワーキンググループ」金曜spin-off会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本蛋白質科学会 アーカイブ編集委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なものの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	分子生物薬学分野
		職名	教授
		氏名	白根 道子
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月8日	2022年度4月に3年生の細胞生物学を新規開講した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年7月15日	「論文図表を読む作法」執筆(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年6月2日 2022年7月7日	愛知淑徳高校 模擬講義「大学の学問にふれる」 豊川高校「大学研究室訪問」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) PDZD8 deficient mice accumulate cholesterol esters in the brain as a result of impaired lipophagy	共著	2022年11月	iScience, 16:25(12):105612 (2022)
(著書) 羊土社 論文図表を読む作法	共著	2022年7月	羊土社(2022) FRET, BiFC/SplitGFP
(論文) Protrudin regulates FAK activation, endothelial cell migration and angiogenesis.	共著	2022年4月	Cell Mol Life Sci, 79(4):220 (2022)
(論文) Molecular machinery regulating organelle dynamics during axon growth and guidance	共著	2022年2月	Semin Cell Dev Biol, S1084-9521(22), 00058-1 (2022)
(論文) Interorganelle communication by protrudin complex and its neuronal function	単著	2021年8月	Seikagaku, 93, 4, 441-450 (2021)
(論文) Protrudin and PDZD8 contribute to neuronal integrity by promoting lipid extraction required for endosome maturation.	共著	2020年9月	Nat Commun, 11, 4576-4594 (2020)
(論文) Lipid Transfer-Dependent Endosome Maturation Mediated by Protrudin and PDZD8 in Neurons	単著	2020年12月	Front Cell Dev Biol, 8, 615600-615609 (2020)
(論文) Protrudin-deficient mice manifest depression-like behavior with abnormalities in activity, attention, and cued fear-conditioning.	共著	2020年11月	Mol Brain, 13, 146-163 (2020)
(論文) Roles of protrudin at interorganelle membrane contact sites.	共著	2019年11月	Proc Jpn Acad Ser B, 95, 312-320 (2019)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) PDZD8欠損マウスはリポファジー不全により脳内脂質異常を呈する		2022年11月	第95回日本生化学会大会
(演題名) 脂質輸送タンパク質PDZD8によるエンドソーム成熟機構		2022年5月	第86回日本生化学会中部支部例会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月~2022年3月	日本生化学会 監事		
2019年4月~現在	日本薬学会生物部会 世話人		
2020年9月	第93回日本生化学会大会 シンポジウム オーガナイザー		
2022年11月	第95回日本生化学会大会 シンポジウム オーガナイザー		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	分子生物薬学分野
職名	准教授	氏名	中津海洋一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年6月	「微生物薬品学I, II」「プレゼンテーション演習」「薬学英语III」「細胞生物学」「分子生物薬学特論」「創薬生命科学基礎II」を担当した
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年7月	論文図表を読む作法(羊土社)(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Senescence Connects Autophagy Deficiency to Inflammation and Tumor Progression in the Liver.	共著	2022年4月	Cell Mol Gastroenterol Hepatol. 2022;14(2):333-355.
(論文) Spatiotemporal reprogramming of differentiated cells underlies regeneration and neoplasia in the intestinal epithelium.	共著	2022年3月	Nature Commun., 2022 May; 13(1):1500.
(論文) Protrudin and PDZD8 contribute to neuronal integrity by promoting lipid extraction required for endosome maturation.	共著	2020年9月	Nature Commun., 2020 Sep; 11(1) 4576-4576.
(論文) Nuclear-cytoplasmic shuttling protein PP2AB56 contributes to mTORC1-dependent dephosphorylation of FOXK1.	共著	2018年3月	Genes to Cells, 2018 May; 23(7) 599-605.
(論文) Noncanonical Pathway for Regulation of CCL2 Expression by an mTORC1-FOXK1 Axis Promotes Recruitment of Tumor-Associated Macrophages	共著	2017年11月	Cell Reports, 2017 Nov; 21(9):2471-2486.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
mTORC1によるP-body形成制御機構		2022年10月	第3回シロリムス新作用研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年6月～現在	日本分子生物学会会員		
2011年6月～現在	日本プロテオーム学会会員		
2020年6月～現在	シロリムス新作用研究会 幹事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	分子生物薬学
職名	助教	氏名	栗原 裕司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年5月 2021年7, 12月	生物系実習(微生物学実習) 微生物薬品学講義
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Nogo receptor antagonist LOTUS exerts s</i>	共著	2020年11月	<i>J Neurochem.</i> , 155
(論文) <i>Axonal regeneration and functional reco</i>	共著	2020年1月	<i>Exp Neurol.</i> , 323
(論文) <i>The soluble form of LOTUS inhibits Nogo</i>	共著	2018年3月	<i>J Neurosci.</i> , 38
(論文) <i>LOTUS overexpression accelerates neuron</i>	共著	2017年7月	<i>PLoS One</i> , 12
(論文) <i>Blockade of chondroitin sulfate proteog</i>	共著	2017年7月	<i>Neuroscience</i> , 356
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし		なし	なし
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年4月~現在	日本神経科学学会会員		
2014年11月~現在	日本分子生物学会会員		
2016年7月~現在	日本薬理学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物送達学分野
職名	教授	氏名	尾関 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年 -	製剤学I: 薬物と製剤材料の性質を理解し、製剤化に応用するための物理薬剤学的基礎知識を習得するよう講義している。
		2018年 -	製剤学II: 製剤学Iで学んだことをもとに、医薬品の製造、その有効性、安全性、品質、管理に関する製剤設計の基礎、理論およびその技術について、実例を挙げて講義している。
		2018年 -	ドラッグデリバリー論: 最新のDDS製剤について紹介するとともに、その開発に必要な基礎知識について解説している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2018年4月30日	最新薬剤学第11版 尾関哲也、井上勝央 編集 廣川書店
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年3月28日	名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第7報～、日本薬学会第138年会
		2019年3月23日	名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第8報～、日本薬学会第139年会
		2020年3月28日	名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第9報～、日本薬学会第140年会
		2022年3月27日	名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第10報～、日本薬学会第142年会
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	(論文) Curcumin marinosomes as promising nano-drug delivery system for lung cancer	共著	2018年1月
	(論文) Effective spray drying technique to prepare nanocomposite particles by preventing the growth of needle-like simvastatin crystal	共著	2019年10月
	(論文) Physical characteristics of ciltazol-hydroxybenzoic acid cocrystals prepared using a spray drying method	共著	2020年10月
	(論文) Gold nanoparticle-coated thermosensitive liposomes for the triggered release of doxorubicin, and photothermal therapy using a near-infrared laser	共著	2021年10月
	(論文) Lyophilized ophthalmologic patches as novel corneal drug formulations using a semi-solid extrusion 3D printer	共著	2022年4月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			Int. J. Pharm., 540(1-2), 40-49
			J. Drug Deliv. Sci. Technol., 53 October, Article 101188
			Crystals 10, Article 313
			Colloids and Surfaces A: Physicochemical and Engineering Aspects, Volume 626, Article 127038
			Int.J. Pharm., 2022 Apr 5;617:121448
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	スプレードライ法で調製したカルバマゼピン固体分散体の経鼻投与における薬物送達の有用性		2022年5月
	糖アルコールを粉碎メディアとした薬物ナノ粒子の調製と実験計画法による製剤品質の最適化		2022年5月
	ドライマウス用咀嚼グミ剤の3Dプリンター製造に有用な製剤組成に関する検討		2022年5月
			学会名
			日本薬剤学会第37年会
			日本薬剤学会第37年会
			日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	The International Pharmaceuticals Federation (FIP)(国際薬剤師・薬学連合)連絡会議委員		
2017年6月～現在	製剤機械技術学会理事		
2019年4月～現在	創剤フォーラム代表世話人		
2020年9月～現在	日本薬剤師会 国際委員		
2022年5月～現在	日本薬剤学会会長		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物送達学
職名	准教授	氏名	田上 辰秋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 服薬補助ゼリーの導入 (科目: 製剤学実習) 錠剤印刷の導入科目: 製剤学実習)	2022年7月 2019年7月	服薬補助ゼリーを用いた薬物の苦味マスキングの実習を行った 自分の名前を印刷できるポータブル錠剤機を導入した
2	作成した教科書、教材、参考書 最新薬剤学第11版 (廣川書店) 製剤学第7版 (南江堂)	2018年6月 2017年4月	担当: 分担執筆, 範囲: 2-5. レオロジー 担当: 分担執筆, 範囲: 2-3. 溶液
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第141年会 ファルマシア. (2018) 54(1): 51-53	2022年3月 2018年4月	本学の製剤学実習における味覚センサーに関して学会発表を行った。 ナノメディシンの教育現場というテーマで本学の大学院について紹介している
4	その他教育活動上特記すべき事項 東海薬剤師生涯学習センター講座	2022年6月	本学の学生や卒業生に向けて最近注目されている製剤に関する講義を行った。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦) 発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
	(論文) Lyophilized ophthalmologic patches as novel corneal drug formulations using a semi-solid extrusion 3D printer	共著	2022年4月 International Journal of Pharmaceutics 617(5) 121448
	(論文) Effective and simple prediction model of drug release from "ghost tablets" fabricated using a digital light projection-type 3D printer.	共著	2021年7月 International journal of pharmaceutics 604 120721
	(論文) 3D printing of gummy drug formulations composed of gelatin and an HPMC-based hydrogel for pediatric use	共著	2021年2月 International journal of pharmaceutics 594 120118
	(論文) 3D printing of unique water-soluble polymer-based suppository shell for controlled drug release.	共著	2019年9月 International journal of pharmaceutics 568 118494
	(論文) Defined drug release from 3D-printed composite tablets consisting of drug-loaded polyvinylalcohol and a water-soluble or water-insoluble polymer filler	共著	2018年5月 International Journal of Pharmaceutics 543(1-2) 361-367
2.	学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	(演題名) ドライマウス用咀嚼ガミ剤の3Dプリンター製造に有用な製剤組成に関する検討	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
	(演題名) 糖アルコールを粉砕メディアとした薬物ナノ粒子の調製と実験計画法による製剤品質の最適化	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	Editorial Board Member of "Pharmaceutics (Journal)", Pharmaceutical Technology, Manufacturing and Devices Section		
2018年4月～現在	粉体工学会中部談話会 実行委員		
2018年4月～現在	日本薬剤学会 英語セミナー 委員・委員長 (2020年4月～)		
2020年3月～2021年9月	第26回創剤フォーラム若手研究会 実行委員長		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	名古屋市立大学	講座名	薬物送達学
		職名	助教
		氏名	小川昂輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021.10.21	長崎大学 卒業生講演
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Fabrication of Mucoadhesive Films Containing Pharmaceutical Ionic Liquid and Eudragit</i>	共著	2022年9月	<i>Pharmaceutics</i> 14(9) 1930-1930
<i>Preparation, Characterization and In Vitro Evaluation of Eudragit S100-Coated Bile Salt-Focused ultrasound/microbubbles-assisted BBB opening enhances LNP-mediated mRNA delivery to</i>	共著	2022年6月	<i>Polymers</i> 14(13) 2693-2693
<i>Recent advances in lipid nanoparticles for delivery of nucleic acid, mRNA, and gene</i>	共著	2022年5月	<i>Drug metabolism and pharmacokinetics</i> 44
<i>Suppression of Peritoneal Fibrosis by Sonoporation of Hepatocyte Growth Factor Gene-</i>	共著	2022年2月	<i>Journal of ΔΔ</i> vol. 21 No. 3
		2021年1月	<i>Pharmaceutics</i> 13(1) 115-115
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 粘膜ワクチンを目指した粉末製剤化mRNA封入脂質ナノ粒子		2022年9月	省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会2022年度若手研究者討論会
(演題名) 糖アルコールを粉砕メディアとした薬物ナノ粒子の調製と実験計画法による製剤品質の最適化		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	日本薬学会会員		
2022年4月～現在	日本薬剤学会会員		
2022年4月～現在	DDS学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	126	124	98%
2年	112	110	98%
3年	92	85	92%
4年	101	97	96%
5年	58	56	97%
6年	62	53	85%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	22	22
麻疹	32	29
水痘	29	7
ムンプス	52	27
B型肝炎	4	51

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。
確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・演習室 ²⁾	宮田専治記念ホール	285	1	285	
	大講義室	209	1	209	
	講義室1	142	1	142	
	講義室4	72	1	72	
	講義室5	118	1	118	
実習室	C B T	72	1	72	
	O S C E	16	8	128	
	模擬病室	-	1	-	
	模擬薬局	72	1	72	
	化学系実習室	120	1	120	
	物理・生物系実習室	120	1	120	
自習室等 ³⁾	学生ラウンジ(研究棟)		6		無線LAN設置
	学生ラウンジ(実習棟)				
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所 (薬学部キャンパス内か別キャンパスか) ② 施設の構成と規模 ③ 栽培している植物種の数 ④ その他の特記事項				

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
 また、固定席が可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に備考欄に記入してください。
 コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください(教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1), 2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
教員個室 (教授室など)	29m ²	—	21	1室あたりの収容人数は定められていない
実験室・研究室 (大)	96m ²	—	19	
実験室・研究室 (中)	74m ²	—	16	
実験室・研究室 (小)	27m ²	—	31	
競争的研究スペース	60m ²	—	18	

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室あたりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1), 2)}	室数	施設の内容
実験動物施設	26	行動薬理室 (3室、なお附室6室)、SPF室 (11室)、コンベ (11室)、洗浄室 (1室)
RI実験施設	4	低レベル実験室、中レベル実験室、動物実験室、遺伝子実験室
共同利用研究施設	10	(共研棟) 1F MS室、ESR室、元素分析室、2F 電子顕微鏡室、3F 生体計測室、免疫制御実験室、生体分子化学実験室、遺伝子実験室、(研究棟) NMR室1、NMR室2

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
総合情報センター 田辺通分館	114	702	16.2%	グループ研究室	22	無線LAN プロジェクター	薬学部・薬学研究科の学生 学部生数(含む1年):151 大学院生数:151 閲覧室PC席数:16
総合情報センター 山の畑分館	219	2,319	9.4%	グループ研究室(2室)	12	無線LAN プロジェクター	滝子(山の畑)キャンパスの3学 部・研究科の学生 学部生数:2,030 大学院生数:289 *教養教育の学生(全学部の1年生) も利用。学生収容定員は所属学部所 在キャンパスの分館の定員扱い 閲覧室PC席数:12
計	333	3,021			34		

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2019年度	2020年度	2021年度	
総合情報センター 田辺通分館	68,243	67,189	574	588	472	41,754	572	540	487	[視聴覚資料] 前回H26は種数 で算出、今回は点数で算出 [電子ジャーナル] キャンパス限定なし： 41,649 田辺限定：5 川澄限定：32 山の畑限定：61 北千種限定：7
総合情報センター 山の畑分館	567,264	532,680	4,425	2,222	8,793	-	4,566	4,339	3,160	[視聴覚資料] 前回H26は 種数で算出、今回は点数 で算出 [電子ジャーナル] 田辺通分館で一括計上
計	635,507	599,869	4,999	2,810	9,265	41,754	5,138	4,879	3,647	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。